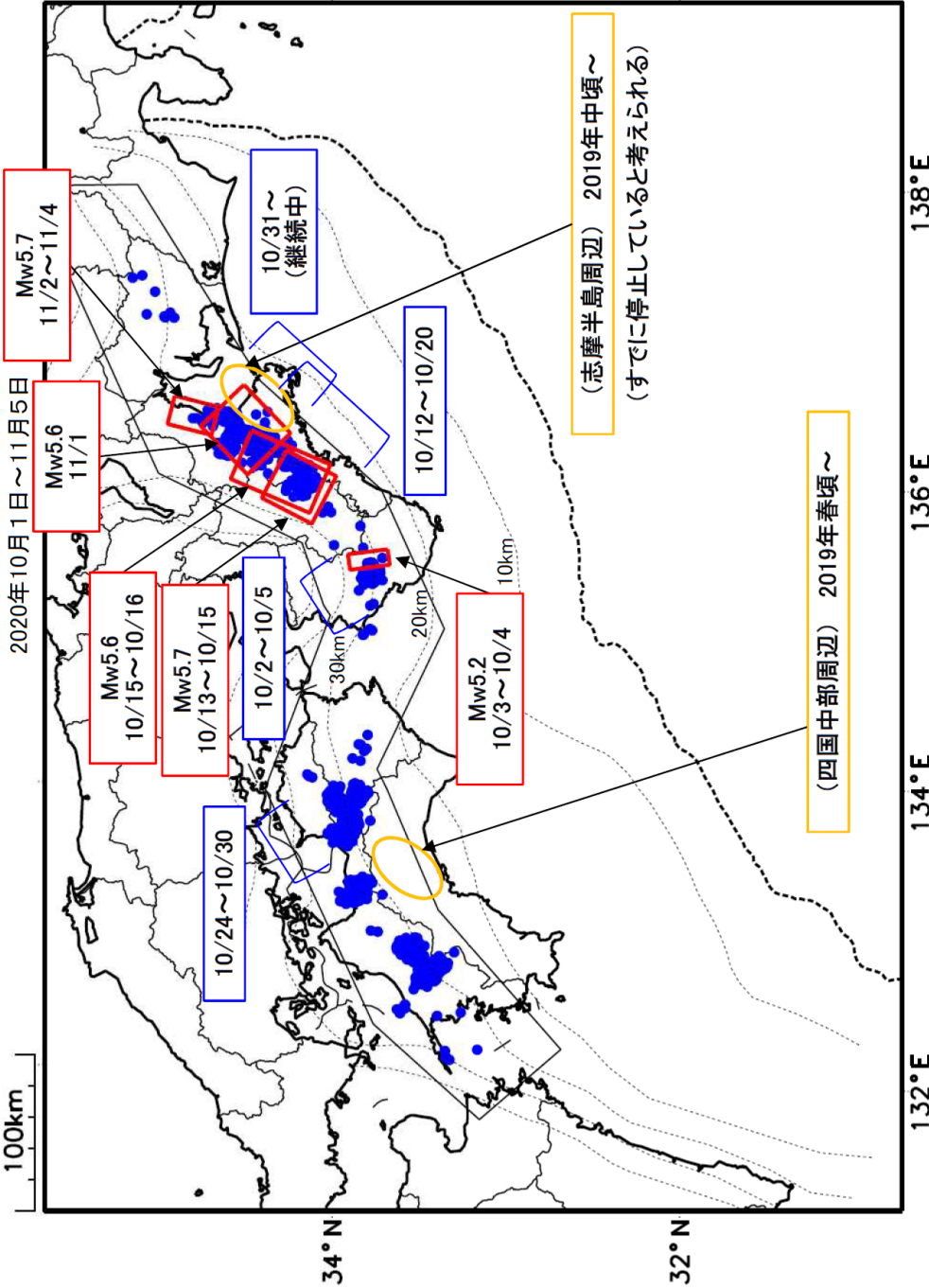


最近の南海トラフ周辺の地殻活動



緑(★)
通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)

青(●)
深部低周波地震(微動)

赤(□)
短期的ゆっくりすべり

黄(○)
長期的ゆっくりすべり

※地図中の点線は、Hirose et al.(2008), Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

※M5.0以上の地震に吹き出しを付けている。

通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)……………気象庁の解析結果による。
 深部低周波地震(微動)……………(震源一タ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
 短期的ゆっくりすべり……………【紀伊半島北部・紀伊半島西部】産業技術総合研究所の解析結果による。
 長期的ゆっくりすべり……………【四国中部周辺、志摩半島周辺】国土地理院の解析結果を元におよその場所を表示している。

気象庁作成

令和2年10月1日～令和2年11月5日の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度3以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震及びその他の主な地震】

特に目立った活動はなかった。

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。

※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
<p>■四国東部</p> <p>9月30日～10月2日</p> <p>10月5日</p> <p>10月7日～10日</p> <p>10月19日～21日</p> <p>10月24日～30日 . . . (3)</p> <p>■四国中部</p> <p>10月10日～12日</p> <p>10月14日</p> <p>11月4日</p> <p>■四国西部</p> <p>10月7日</p> <p>10月9日～14日</p> <p>10月17日～19日</p> <p>10月22日</p> <p>10月26日～28日</p> <p>10月30日～11月2日</p>	<p>■紀伊半島北部</p> <p>10月8日～10日</p> <p>10月12日～20日 . . . (2)</p> <p>10月27日～28日</p> <p>11月1日～（継続中）注1） . . . (4)</p> <p>■紀伊半島中部</p> <p>10月16日～17日</p> <p>■紀伊半島西部</p> <p>10月2日～5日 . . . (1)</p> <p>10月16日～17日</p>	<p>10月5日</p> <p>10月28日</p>

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数2日以上または活動日数1日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。

※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。

※上の表中（1）～（4）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

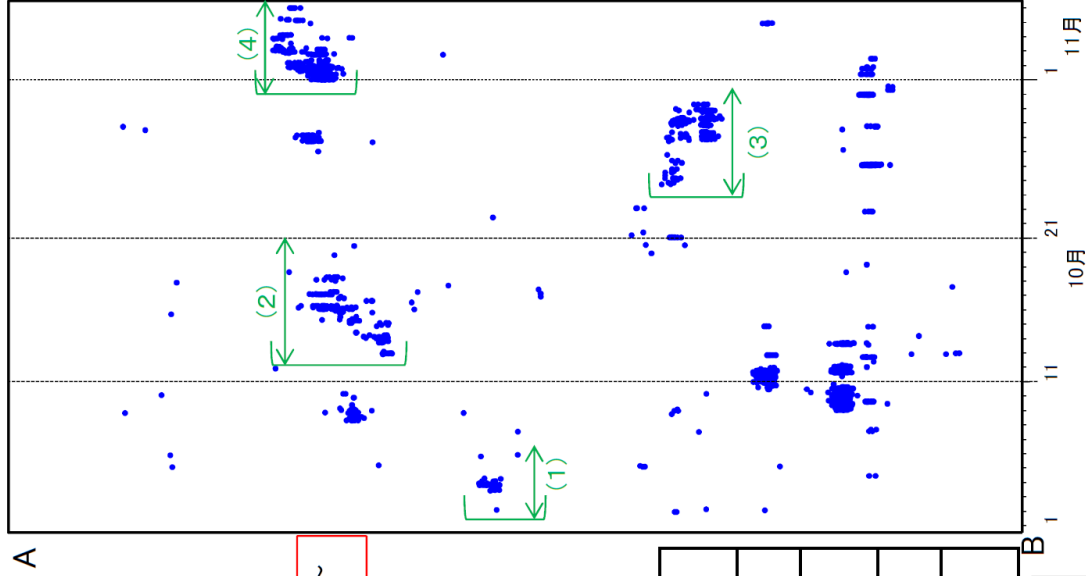
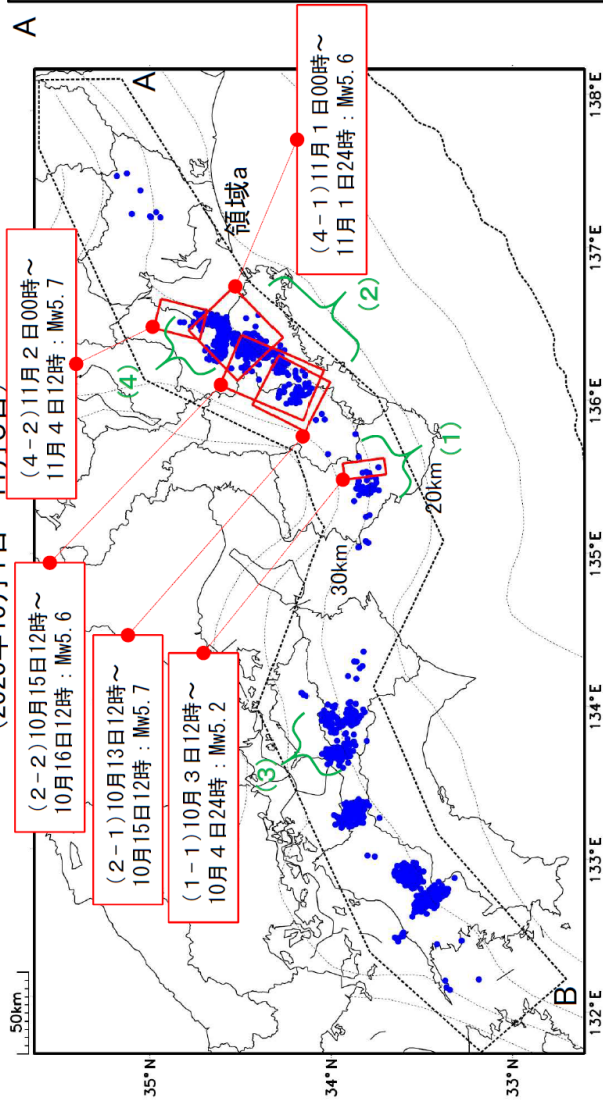
注1）防災科学技術研究所による解析では、10月31日頃から微動活動が見られている。

気象庁作成

深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべりの全体概要

領域a（点線矩形）内の深部低周波地震（微動）の時間分布図（A-B投影）

深部低周波地震（微動）の震央分布図と短期的ゆっくりすべりの断層モデル
（2020年10月1日～11月5日）



主な深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

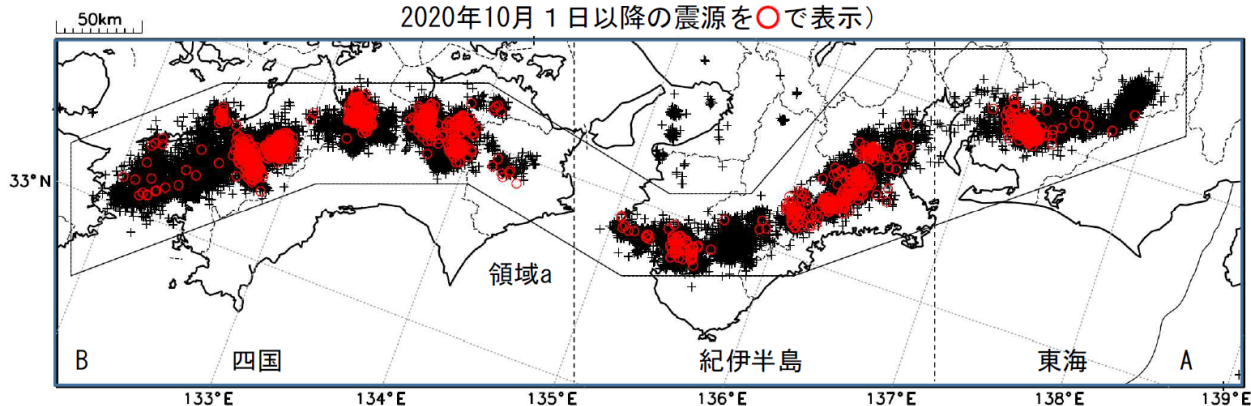
活動場所	深部低周波地震（微動）活動の期間	短期的ゆっくりすべりの期間と規模
(1) 紀伊半島西部	10月2日～10月5日	(1-1) 10月3日12時～10月4日24時 : Mw5.2
(2) 紀伊半島北部	10月12日～10月20日	(2-1) 10月13日12時～10月15日12時 : Mw5.7 (2-2) 10月15日12時～10月16日12時 : Mw5.6
(3) 四国東部	10月24日～10月30日	(明瞭な地殻変動は観測されていない)
(4) 紀伊半島北部	10月31日～(継続中)	(4-1) 11月1日00時～11月1日24時 : Mw5.6 (4-2) 11月2日00時～11月4日12時 : Mw5.7

● : 深部低周波地震（微動）震央（気象庁の解析結果を示す）
 □ : 短期的ゆっくりすべりの断層モデル（紀伊半島北部、紀伊半島西部、産業技術総合研究所の解析結果を示す）
 点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフイリヒン海プレート上面の深さ（10kmごとの等深線）を示す。

深部低周波地震（微動）活動（2010年11月1日～2020年10月31日）

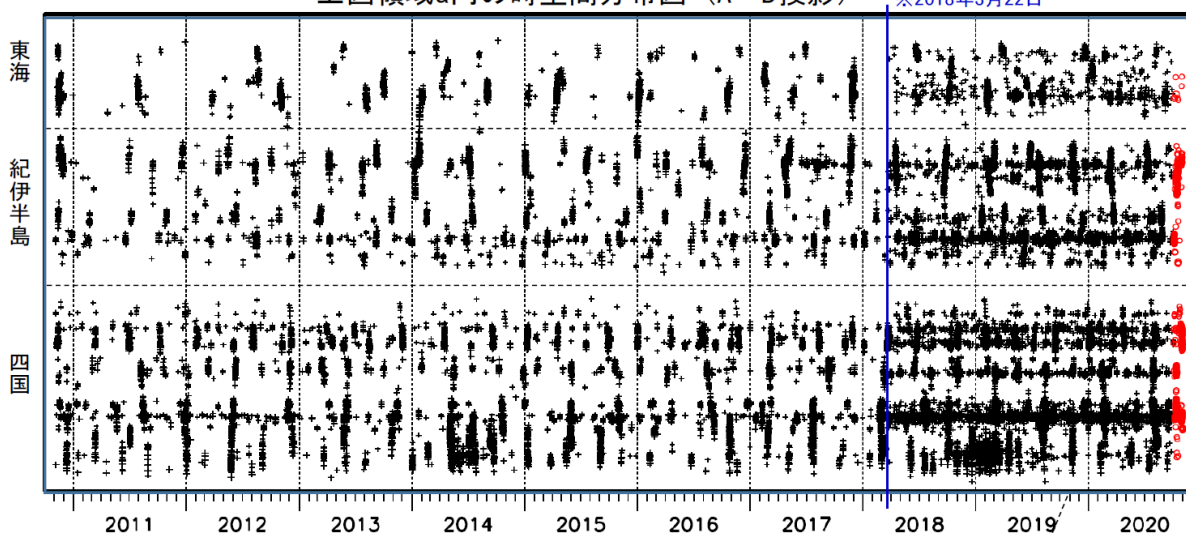
深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

震央分布図（2010年11月1日～2020年10月31日：過去10年間
2020年10月1日以降の震源を○で表示）

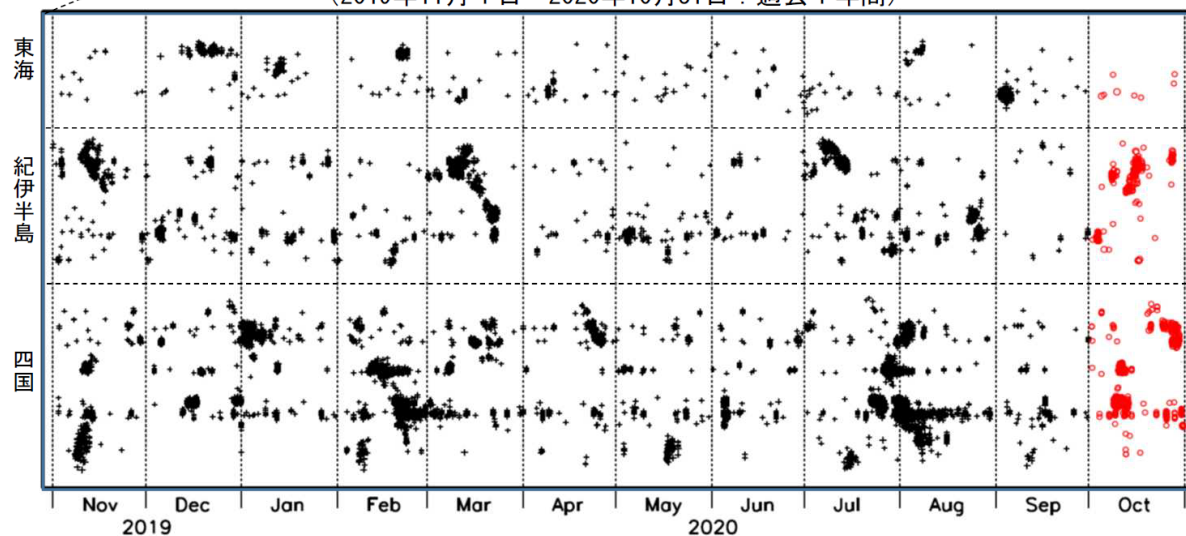


上図領域a内の時空間分布図（A-B投影）

※2018年3月22日



（2019年11月1日～2020年10月31日：過去1年間）



※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更（Matched Filter法の導入）により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

気象庁作成

紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況 (2020年10月)



- 10月12～17日頃に紀伊半島北部から中部において、やや活発な微動活動。
- 10月31日頃より紀伊半島北部において、微動活動が開始。

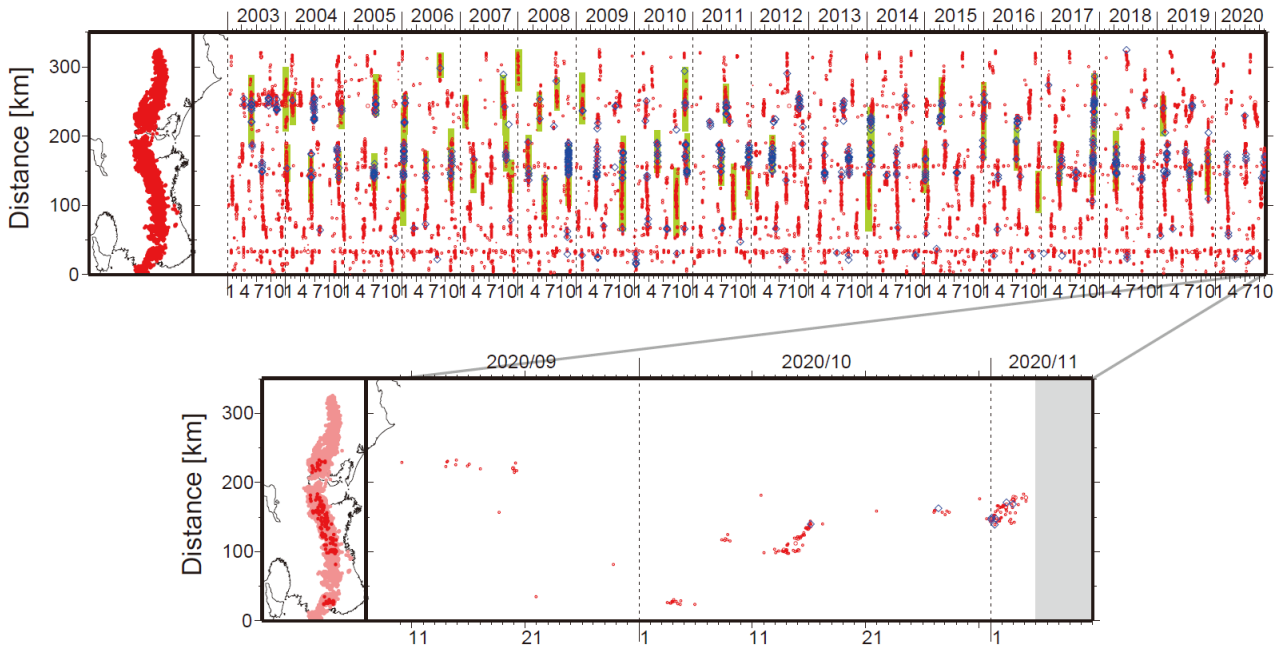


図1. 紀伊半島・東海地域における2003年1月～2020年11月4日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロップ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は2020年10月を中心とした期間の拡大図である。10月12～17日頃には三重・奈良県境付近において、やや活発な微動活動がみられた。この活動は三重・奈良県境付近の奈良県側で開始し、その後北東方向への活動域の移動がみられた。10月31日頃からは三重県中部から北部において微動活動が開始している。この活動は10月中旬の活動の北端付近から開始し、北東方向への活動域の移動がみられている。この活動に際し、傾斜変動から短期的SSEの断層モデルも推定されている。その他の活動としては、10月3～4日頃に和歌山県中部で、10月27～28日頃に三重県北部で、それぞれ小規模な活動がみられた。10月8～9日頃には三重県中部で、ごく小規模な活動がみられた。

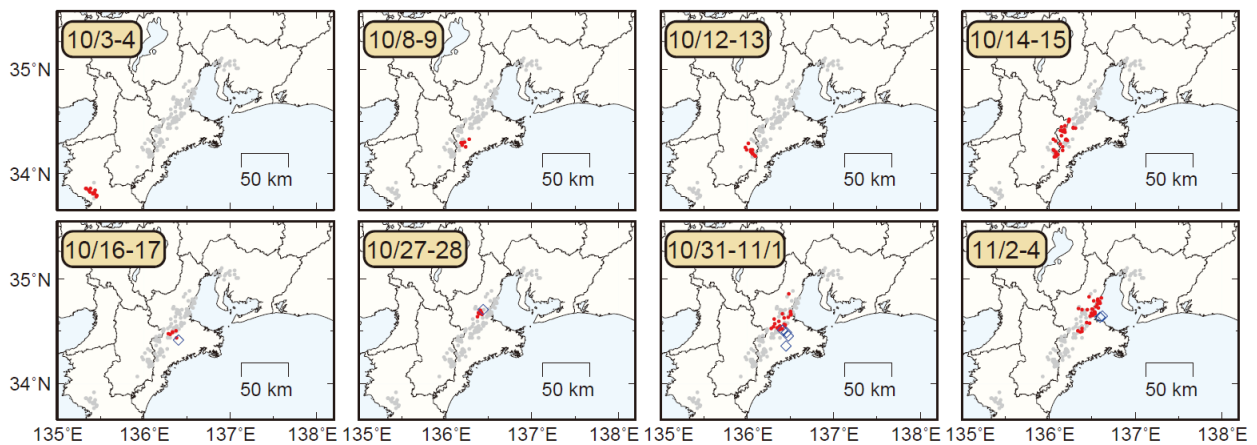


図2. 各期間に発生した微動（赤丸）および深部超低周波地震（青菱形）の分布。灰丸は、図1の拡大図で示した期間における微動分布を示す。

防災科学技術研究所資料

紀伊半島の深部低周波地震（微動）活動と 短期的ゆっくりすべり

10月2日から5日にかけて、紀伊半島西部で深部低周波地震（微動）を観測した。
10月12日から20日にかけて、紀伊半島北部で深部低周波地震（微動）を観測した。この活動は北東方向への活動域の拡大がみられた。

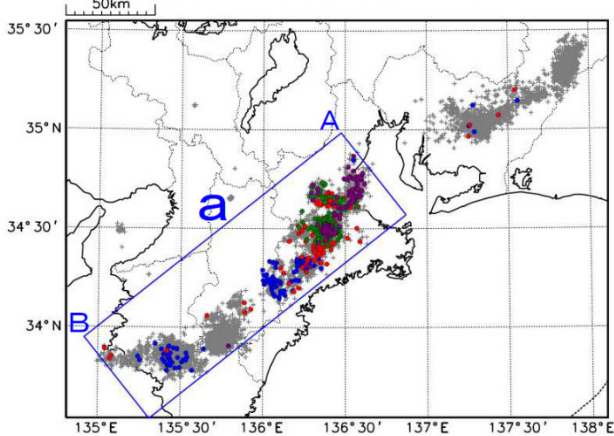
11月1日から紀伊半島北部で深部低周波地震（微動）を観測している。この活動は北東方向への活動域の拡大がみられている。

深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

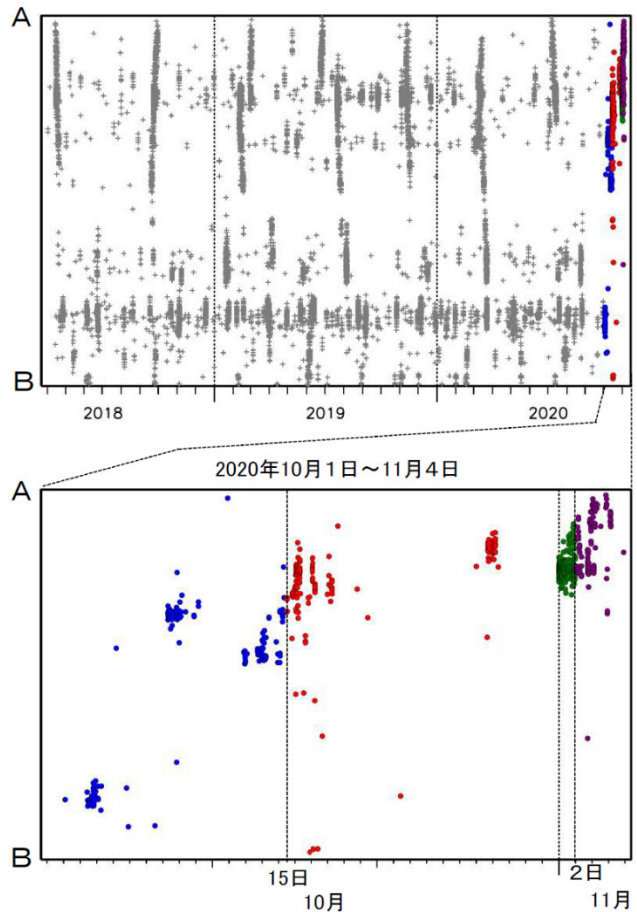
深部低周波地震（微動）活動

震央分布図（2018年4月1日～2020年11月4日、
深さ0～60km、Mすべて）

灰：2018年4月1日～2020年09月30日、
青：2020年10月1日～2020年10月15日12時、
赤：2020年10月15日12時～2020年10月31日、
緑：2020年11月1日
紫：2020年11月2日～2020年11月4日



震央分布図の領域a内の時空間分布図（A-B投影）



気象庁作成

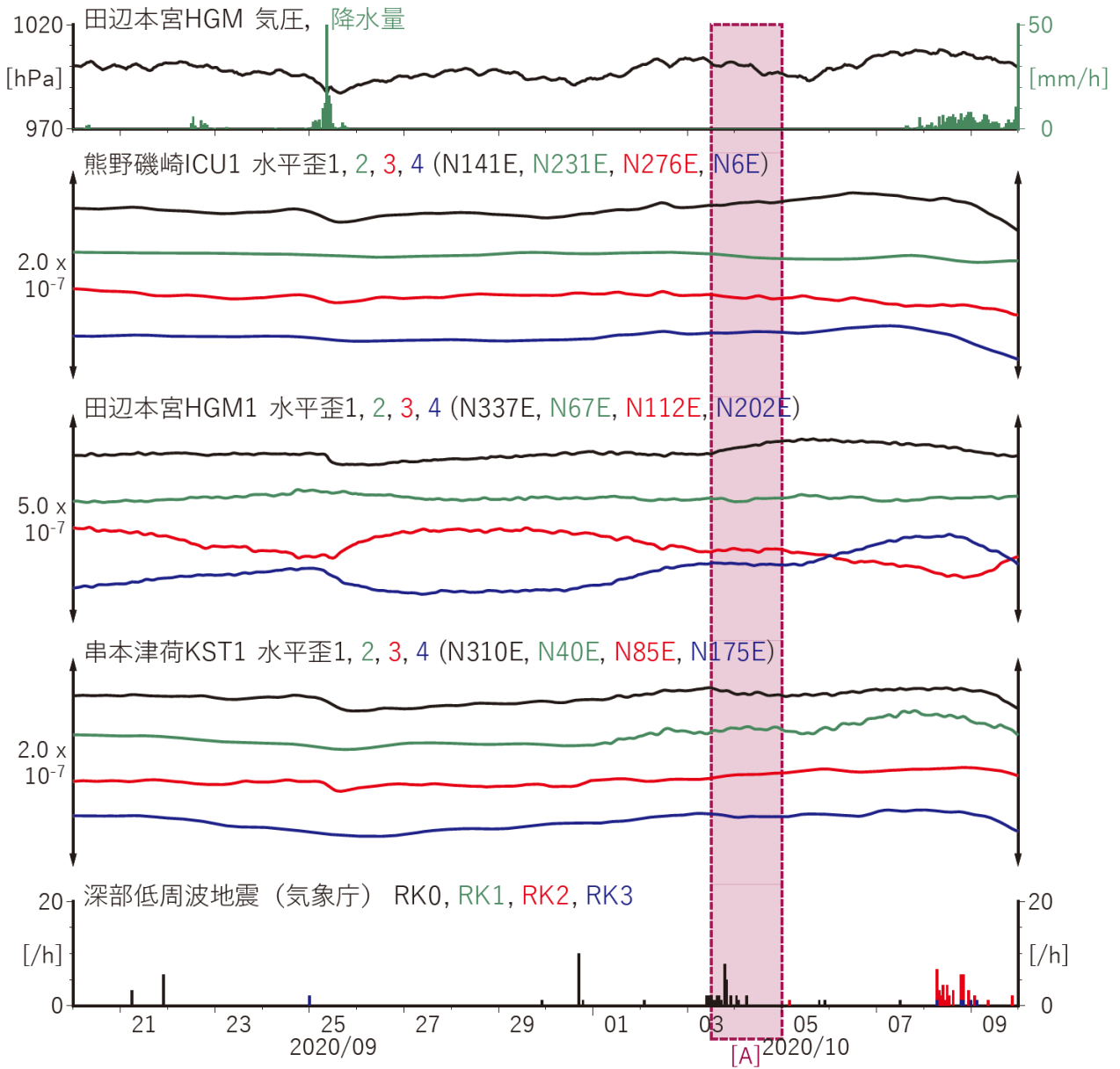
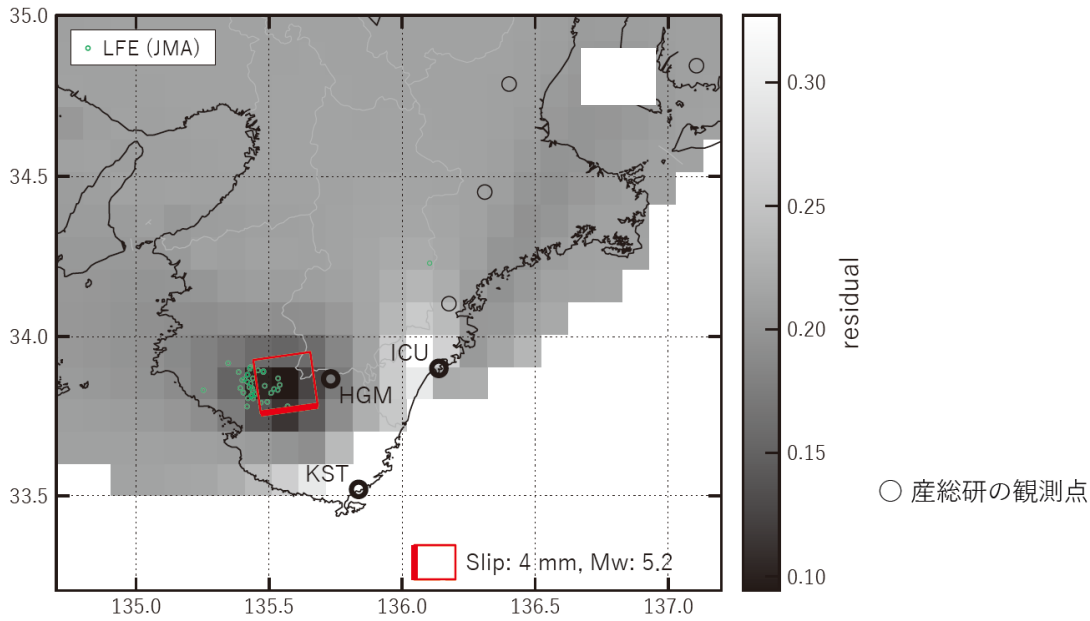


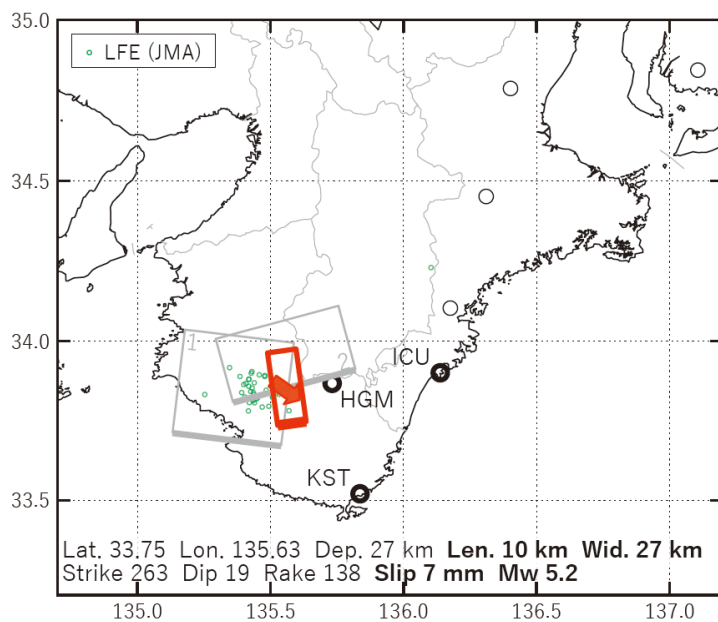
図2 紀伊半島における歪観測結果（2020/09/20 00:00 - 2020/10/10 00:00 (JST)）

[A] 2020/10/03PM-04

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

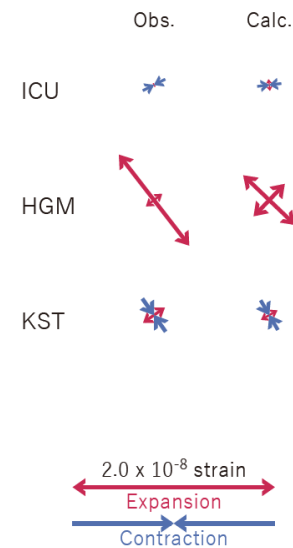


図3 2020/10/03PM-04 の歪変化（図2[A]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2020/05/04-05AM (Mw5.4), 2: 2020/08/23-26 (Mw5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

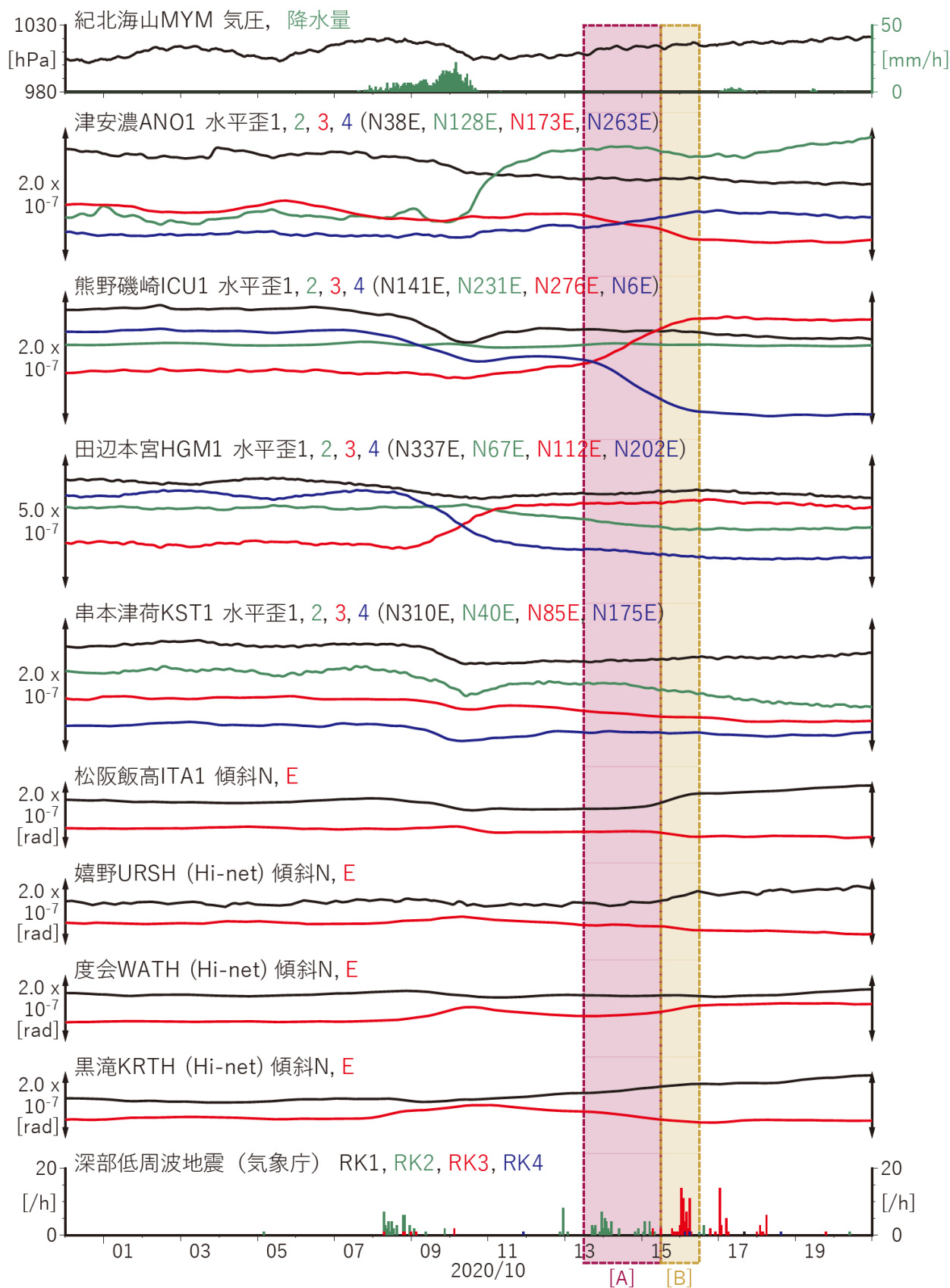
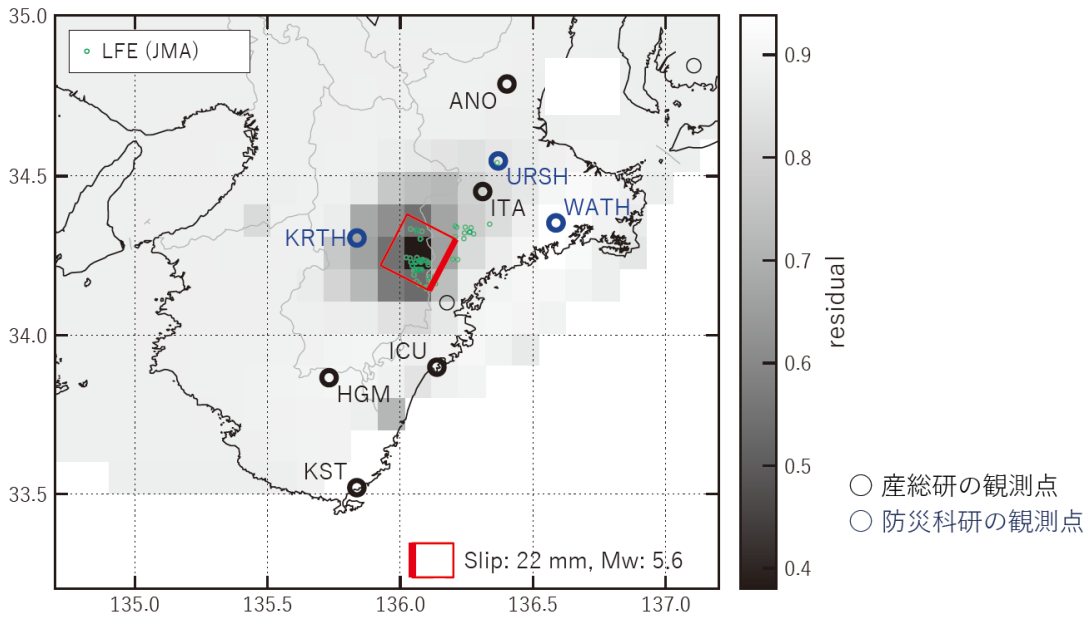


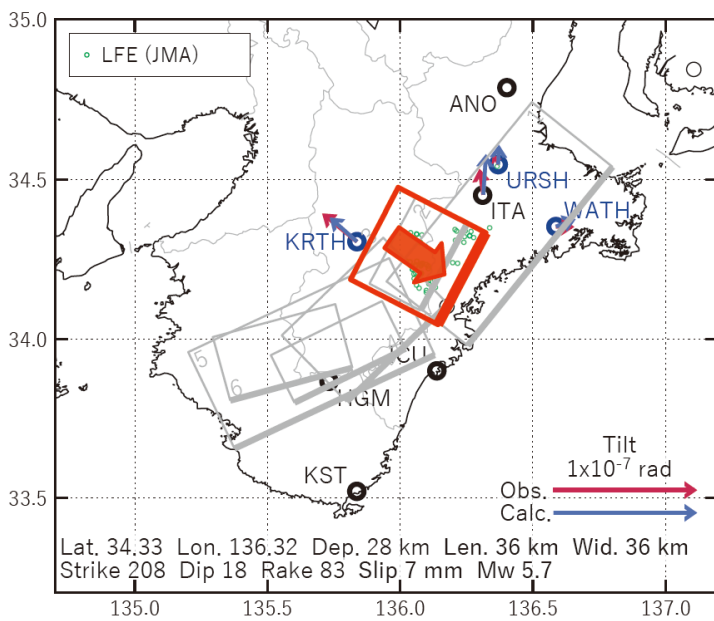
図5 紀伊半島における歪・傾斜観測結果（2020/09/30 00:00 - 2020/10/21 00:00 (JST)）

[A] 2020/10/13PM-15AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

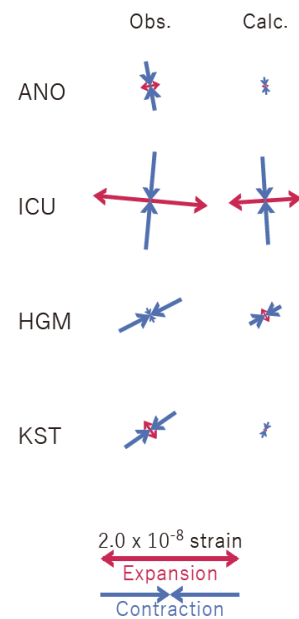


図6 2020/10/13PM-15AM の歪・傾斜変化 (図5[A]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

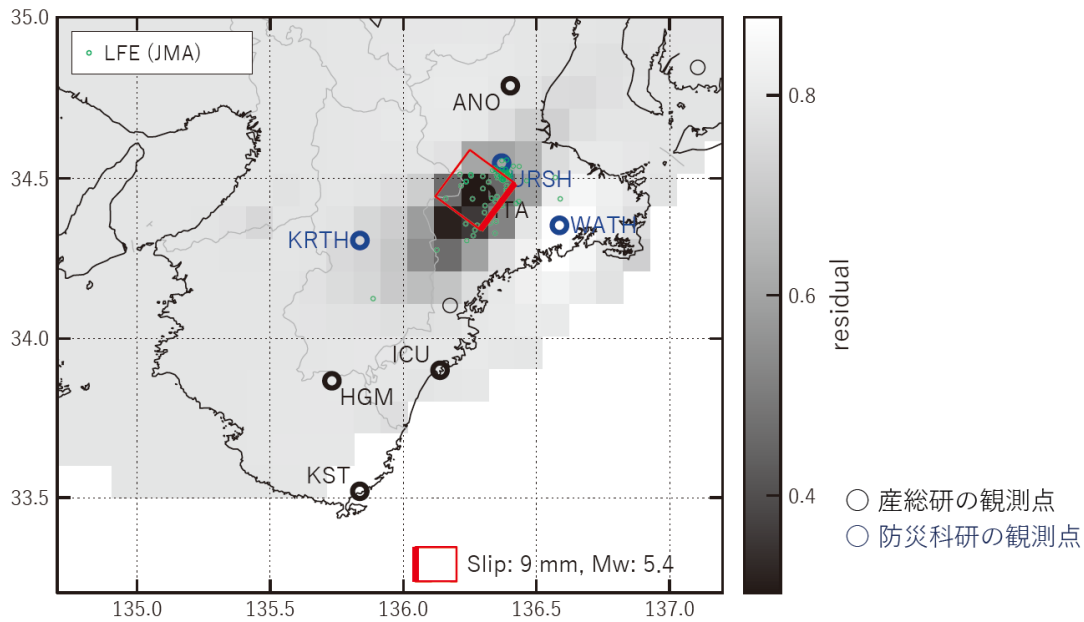
(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

- 1: 2020/03/10PM-12 (Mw5.8), 2: 2020/03/16PM-18 (Mw5.5), 3: 2020/03/19PM-21AM (Mw5.6)
 4: 2020/03/21PM-22AM (Mw5.5), 5: 2020/03/22PM-23AM (Mw5.4), 6: 2020/08/23-26 (Mw5.8)

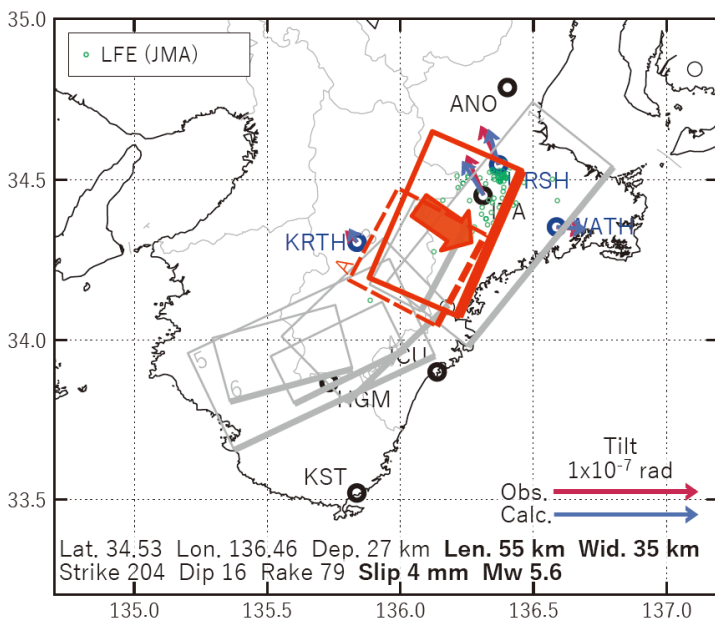
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2020/10/15PM-16AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

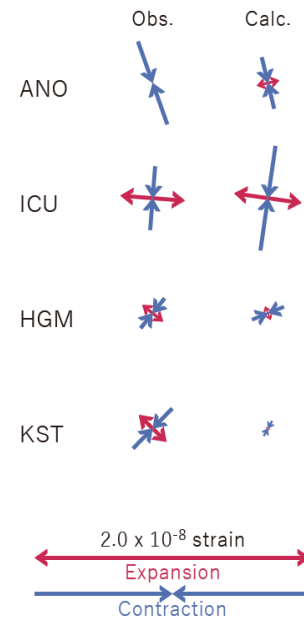


図7 2020/10/15PM-16AM の歪・傾斜変化（図5[B]）を説明する断層モデル。

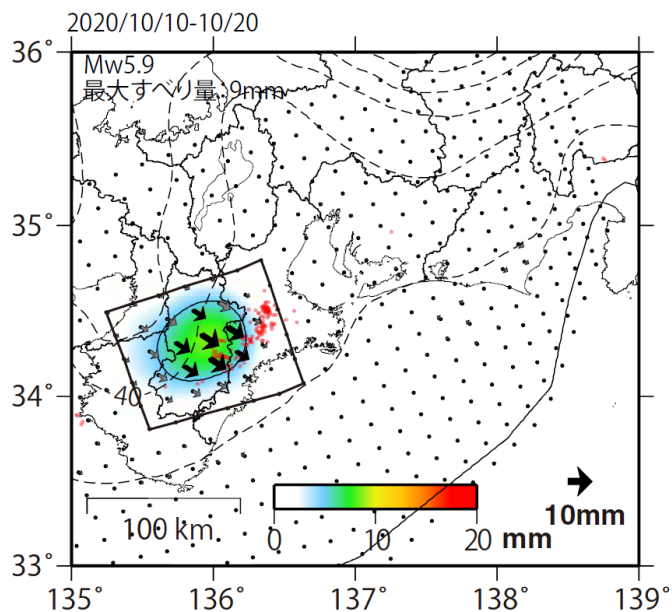
(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

- 1: 2020/03/10PM-12 (Mw5.8), 2: 2020/03/16PM-18 (Mw5.5), 3: 2020/03/19PM-21AM (Mw5.6)
- 4: 2020/03/21PM-22AM (Mw5.5), 5: 2020/03/22PM-23AM (Mw5.4), 6: 2020/08/23-26 (Mw5.8)
- A: 2020/10/13PM-15AM (Mw5.7)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

GNSSデータから推定された
紀伊半島北部の深部低周波微動と同期したスロースリップ（暫定）

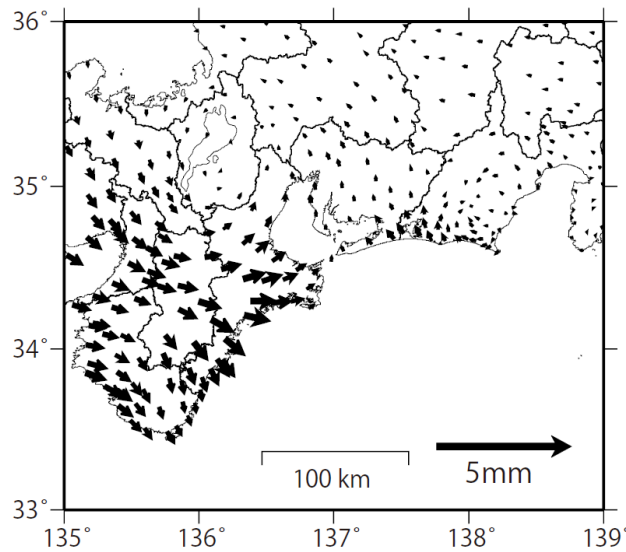
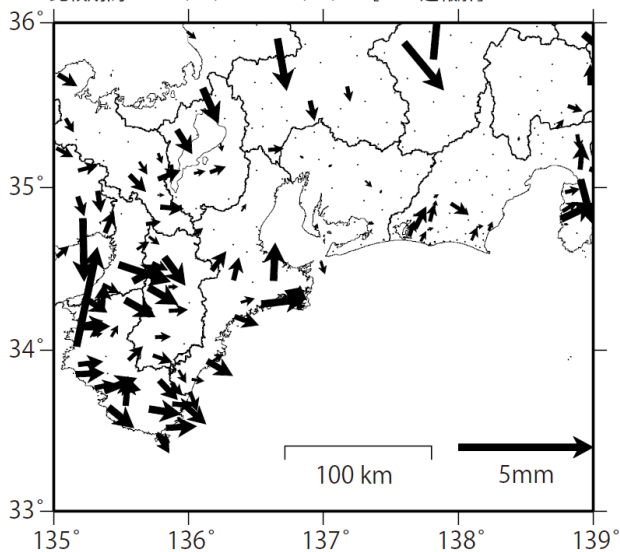


推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色表示している。

観測

計算

基準期間：2020/09/1~2020/10/10 [F3：最終解]
比較期間：2020/10/14~2020/10/20 [R3：速報解]



解析に使用した全観測点の座標時系列から
共通に含まれる時間変化成分は取り除いている。
基準期間と比較期間の間のオフセットをRamp関数で推定
西向き成分は除外

解析に使用した観測点の範囲：概ね北緯33.4~36°、東経135~139°
使用データ：F3解(2020/9/1 - 2020/10/17)+R3解(2020/10/18 - 2020/11/1)
トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1
モーメント計算範囲：上段の図の黒枠内側
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(弘瀬・他、2007)
すべり方向：プレートの沈み込む方向と平行な方向に拘束
赤丸：低周波地震(気象庁一元化震源)
コンター間隔：5mm
固定局：三隅

国土地理院

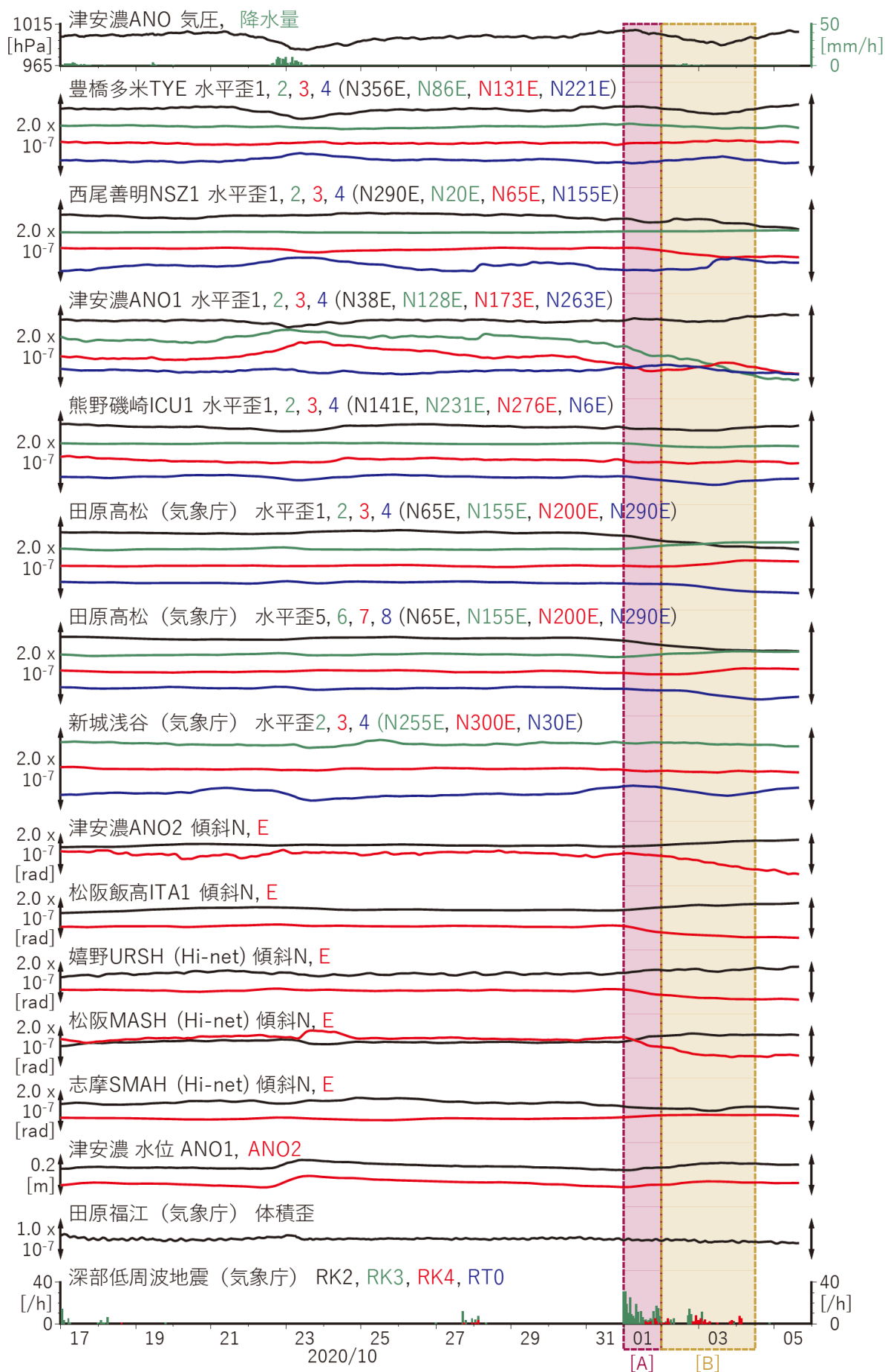
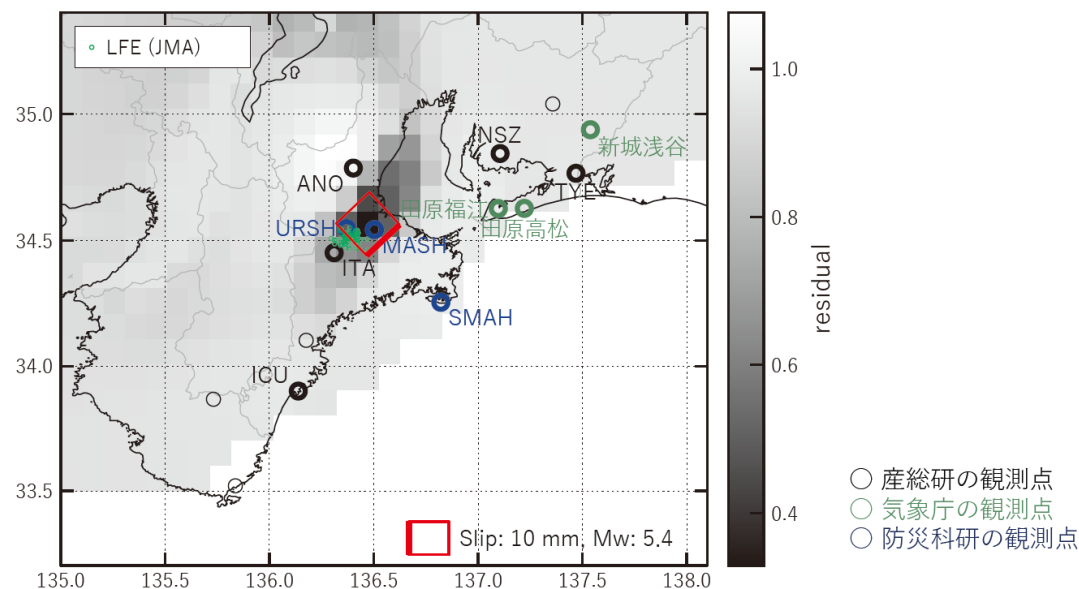


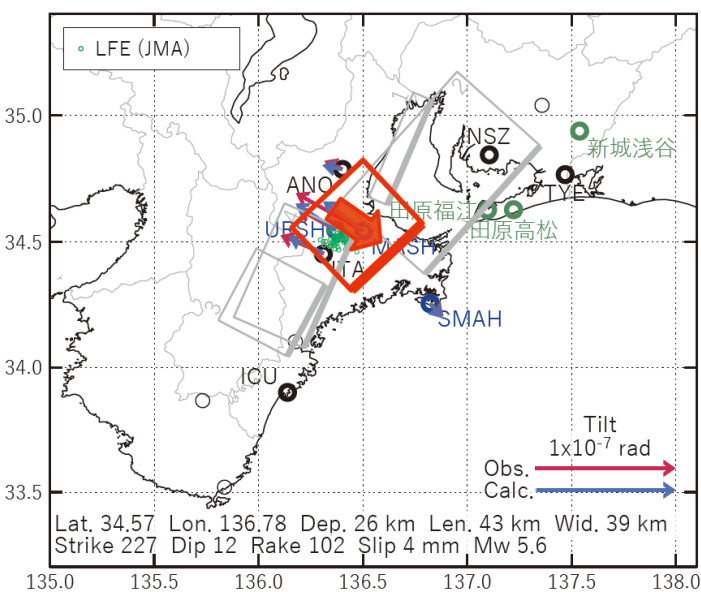
図9 紀伊半島～東海地方における歪・傾斜・地下水観測結果 (2020/10/17 00:00 - 2020/11/06 00:00 (JST))
 (低周波地震は2020/11/05 00:00まで) 産業技術総合研究所 資料-10

[A] 2020/11/01

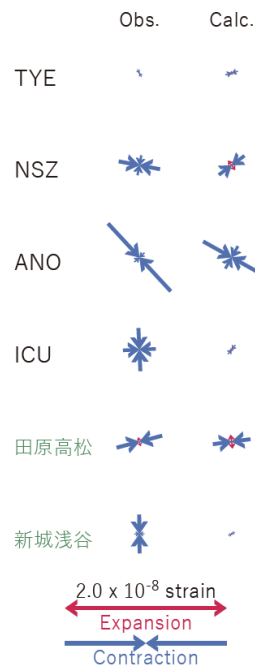
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

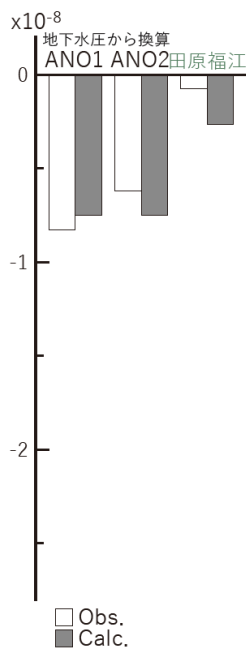
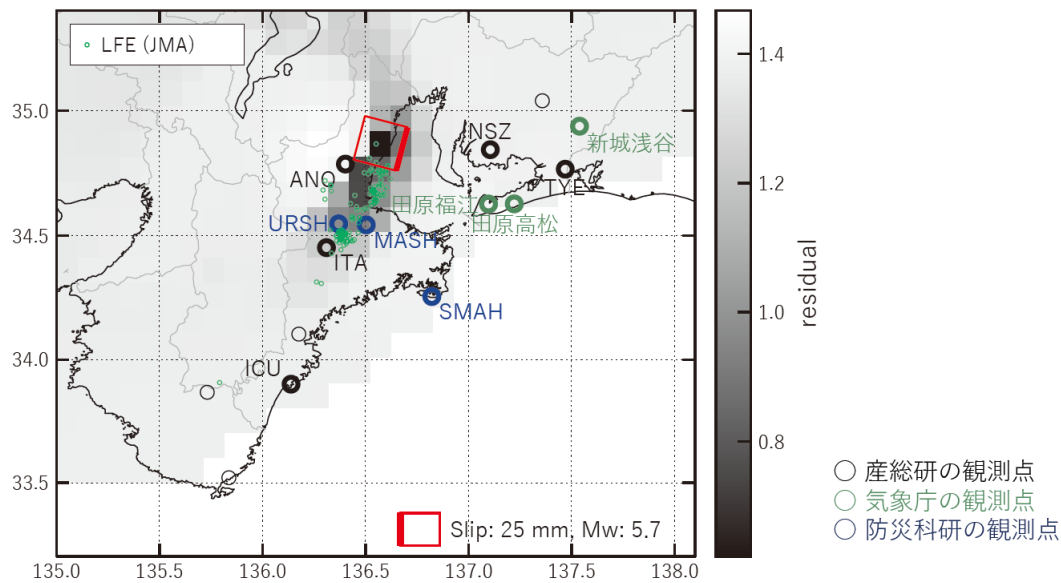


図10 2020/11/01の歪・傾斜・地下水変化（図9[A]）を説明する断層モデル。

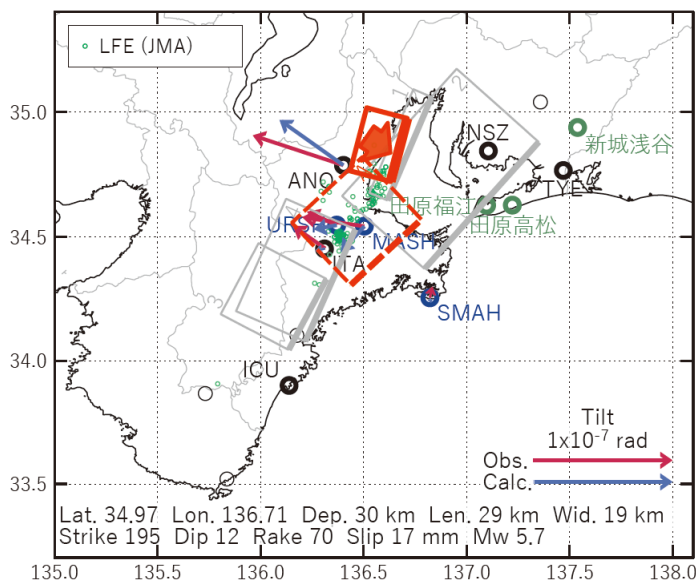
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。
 1: 2020/07/06-08AM (Mw5.9), 2: 2020/06/30PM-07/03 (Mw6.1), 3: 2020/10/13PM-15AM (Mw5.7),
 4: 2020/10/15PM-16AM (Mw5.6)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。
- (b3) 体積歪（地下水圧から換算）の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2020/11/02-04AM

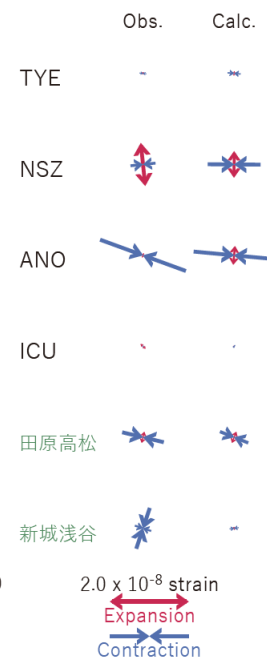
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

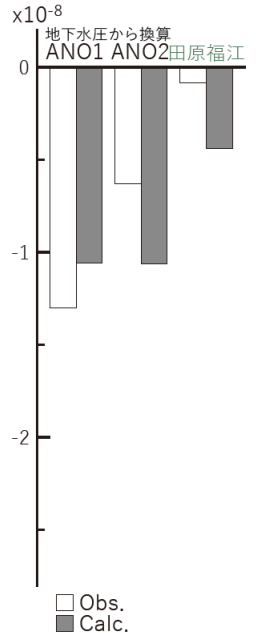


図11 2020/11/02-04AMの歪・傾斜・地下水変化（図9[B]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2020/07/06-08AM (Mw5.9), 2: 2020/06/30PM-07/03 (Mw6.1), 3: 2020/10/13PM-15AM (Mw5.7), 4: 2020/10/15PM-16AM (Mw5.6), A: 2020/11/01 (Mw5.6)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(b3) 体積歪（地下水圧から換算）の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

紀伊半島北部の短期的スロースリップ活動状況（2020年10～11月）



- ・紀伊半島北部を活動域とする短期的スロースリップイベント（Mw 5.8）
- ・2019年11月（Mw 5.8）以来約1年ぶり

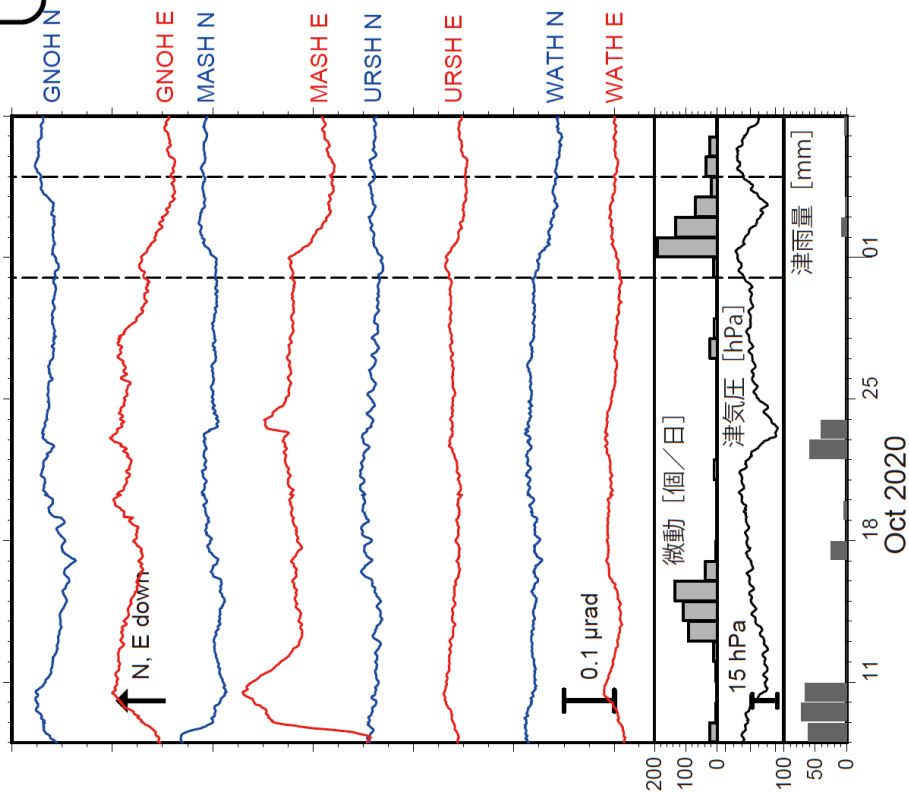


図1：2020年10月8日～11月7日の傾斜時系列。上方向への変化が北・東下がり傾斜変動を表し、BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答成分を除去した。10月31日～11月4日の傾斜変化ベクトルを図2に示す。紀伊半島中北部での微動活動度・気象庁津観測点の気圧・雨量をあわせて示す。

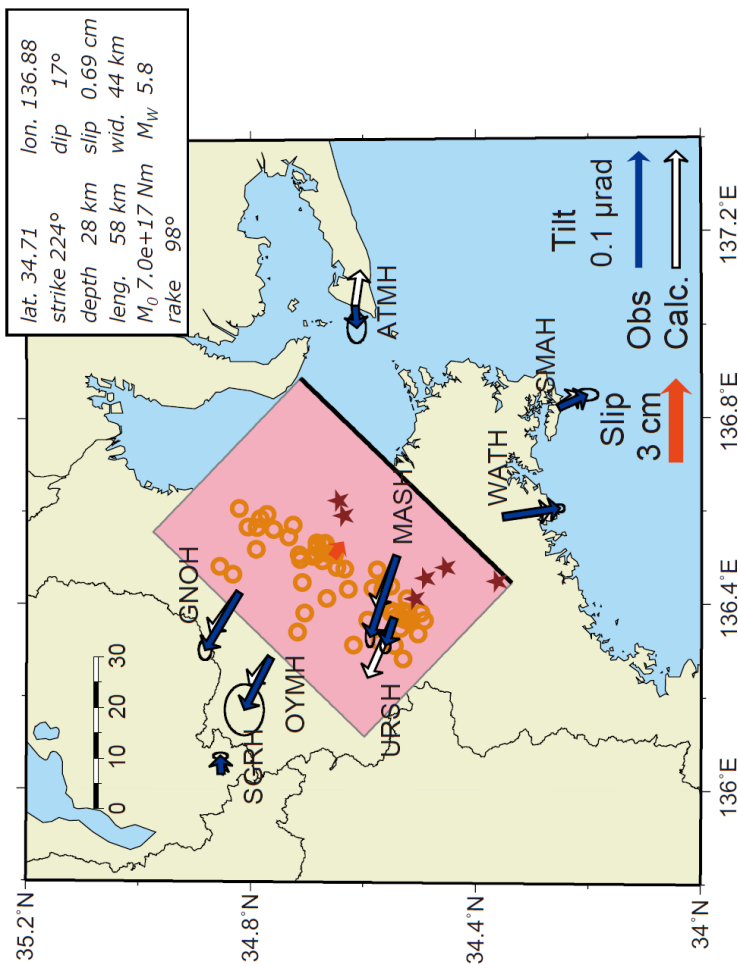


図2：10月31日～11月4日に観測された傾斜変化ベクトル（青矢印）、推定されたスロースリップイベントの断層モデル（赤矩形・矢印）、モデルから計算される傾斜変化ベクトル（白抜き矢印）を示す。1時間ごとの微動エネルギーの重心位置（橙丸）もあわせて示す。すべり角はプレート相対運動方向に固定している。

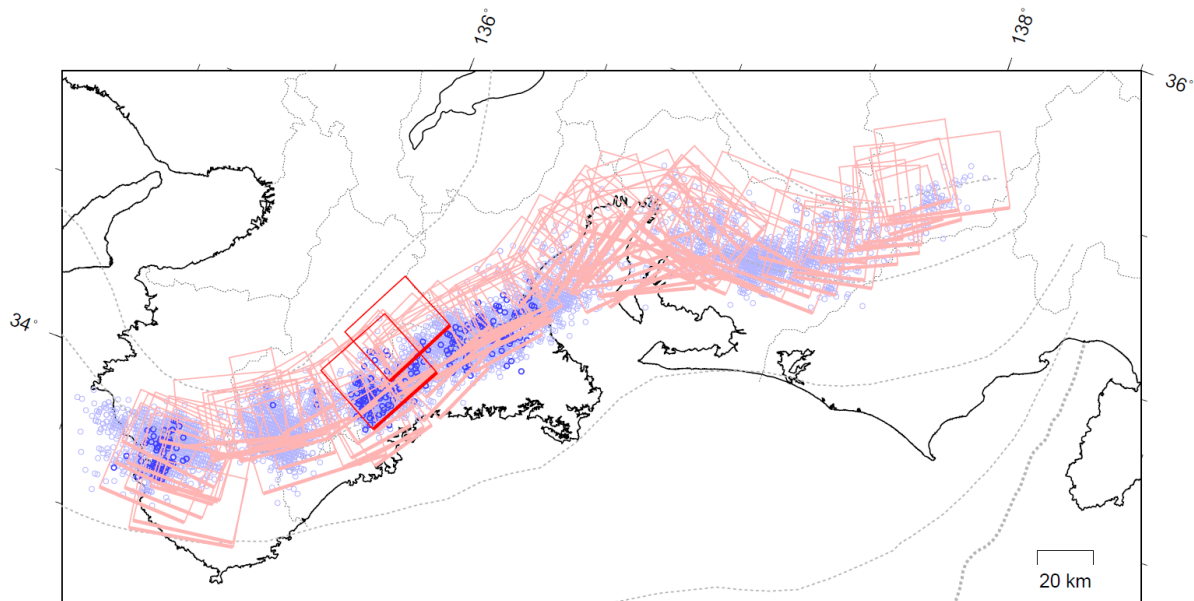
謝辞

気象庁のWEBページで公開されている気象データを頂戴しました。記して感謝いたします。

東海～紀伊半島 短期的ゆっくりすべりの活動状況

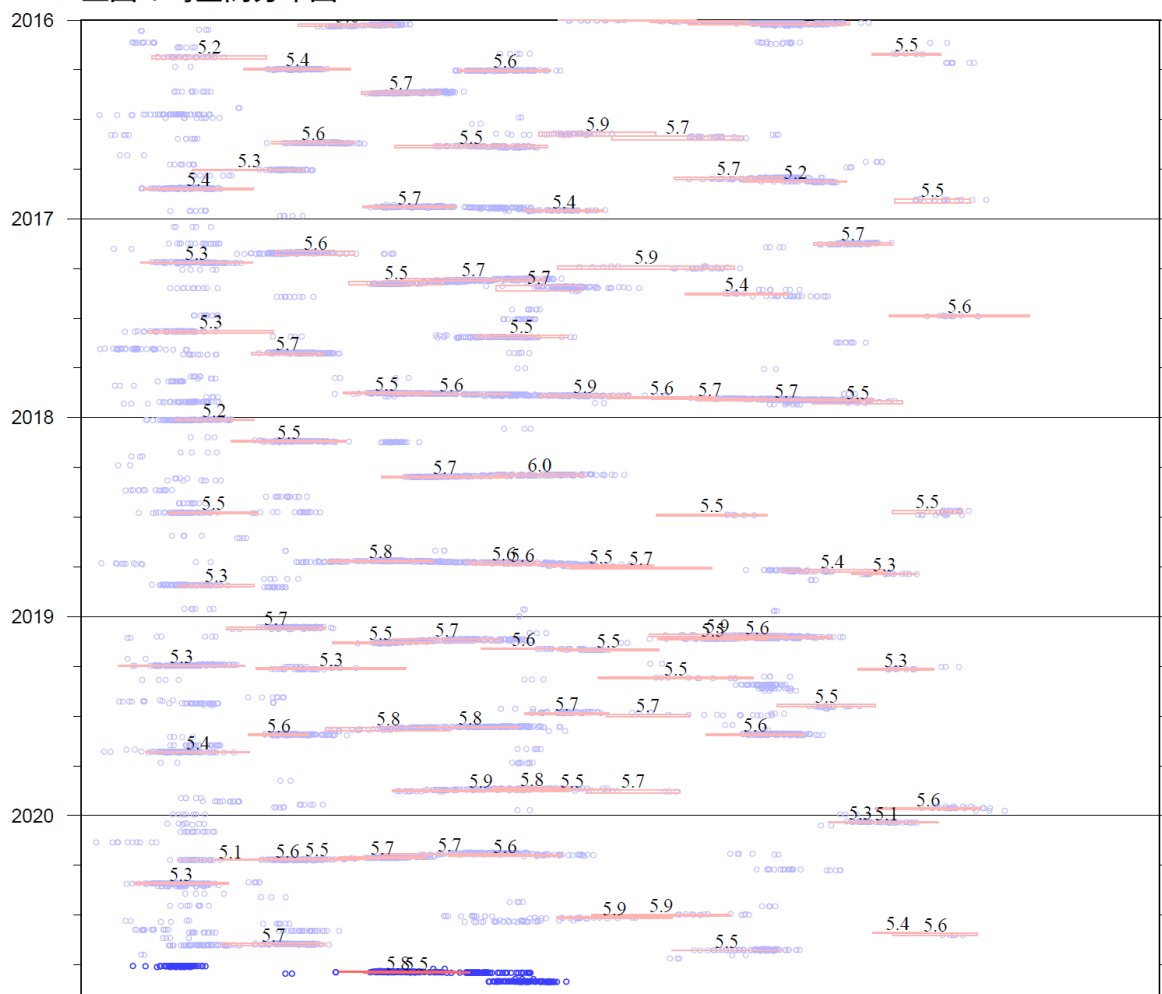
2016年1月1日～2020年11月1日

(2020年10月1日以降を濃く表示)



※破線は、フィリピン海プレート上面の等深線を示す。
 ※赤矩形は、気象庁による短期的ゆっくりすべりの断層モデル（参考解を含む）を示す。

上図の時空間分布図





※短期的ゆっくりすべりの解析には、気象庁、産業技術総合研究所及び静岡県データのデータを用いている。

※赤矩形の上に表示されている数字は解析されたM_lを示す。

※青丸はエンベロップ相関法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた低周波微動の震央を示す。

気象庁作成

四国の深部低周波微動活動状況（2020年10月）  防災科研 

● 10月24～30日頃に四国東部において、活発な微動活動。

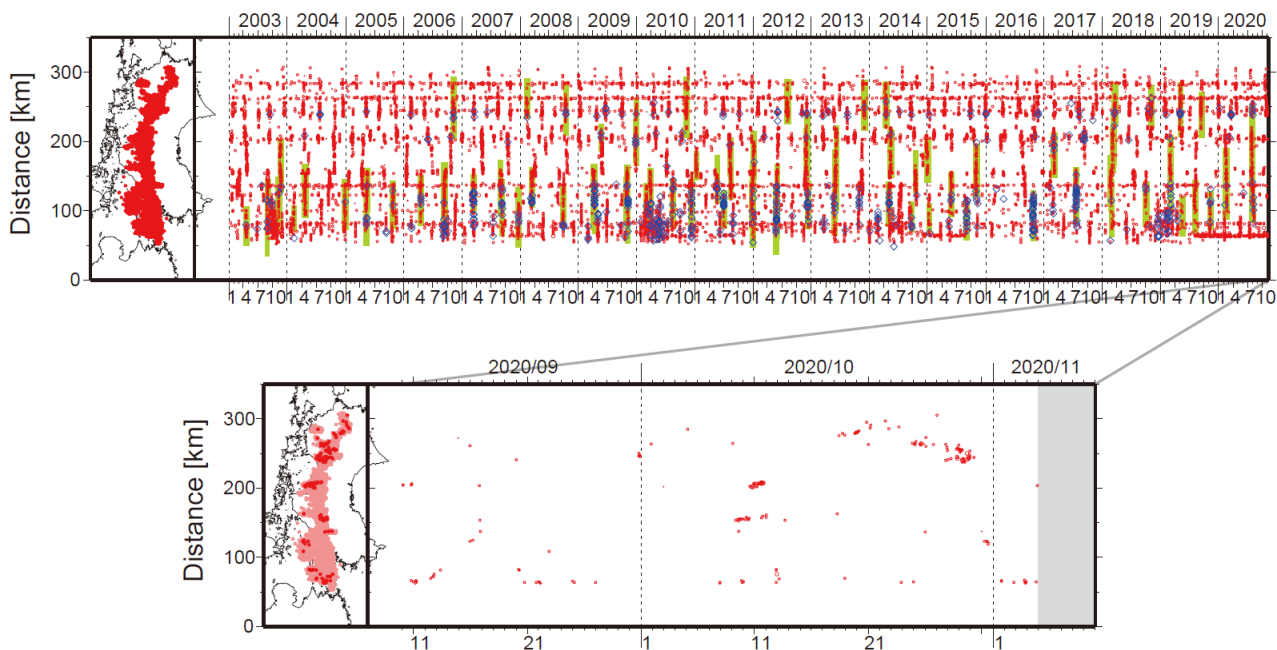


図1. 四国における2003年1月～2020年11月4日までの深部低周波微動の時空間分布(上図). 赤丸はエンベロップ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である. 青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である. 黄緑色太線は, これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す. 下図は2020年10月を中心とした期間の拡大図である. 10月24～30日頃には徳島県西部から愛媛・香川・徳島県境付近において活発な微動活動がみられた. この活動は, 徳島・香川県境付近で開始し, 27日頃から西方向に活動域の拡大がみられた. その他の活動として, 9月30日～10月1日頃には愛媛・香川・徳島県境付近において, 10月9～13日頃には愛媛県中部において, 10月10～11日頃には愛媛県東部において, 10月18～23日頃には徳島県中部において, それぞれ小規模な活動がみられた. 10月9～10日頃, 10月12～13日頃には豊後水道において, 10月31日頃には愛媛県西部において, それぞれごく小規模な活動がみられた.

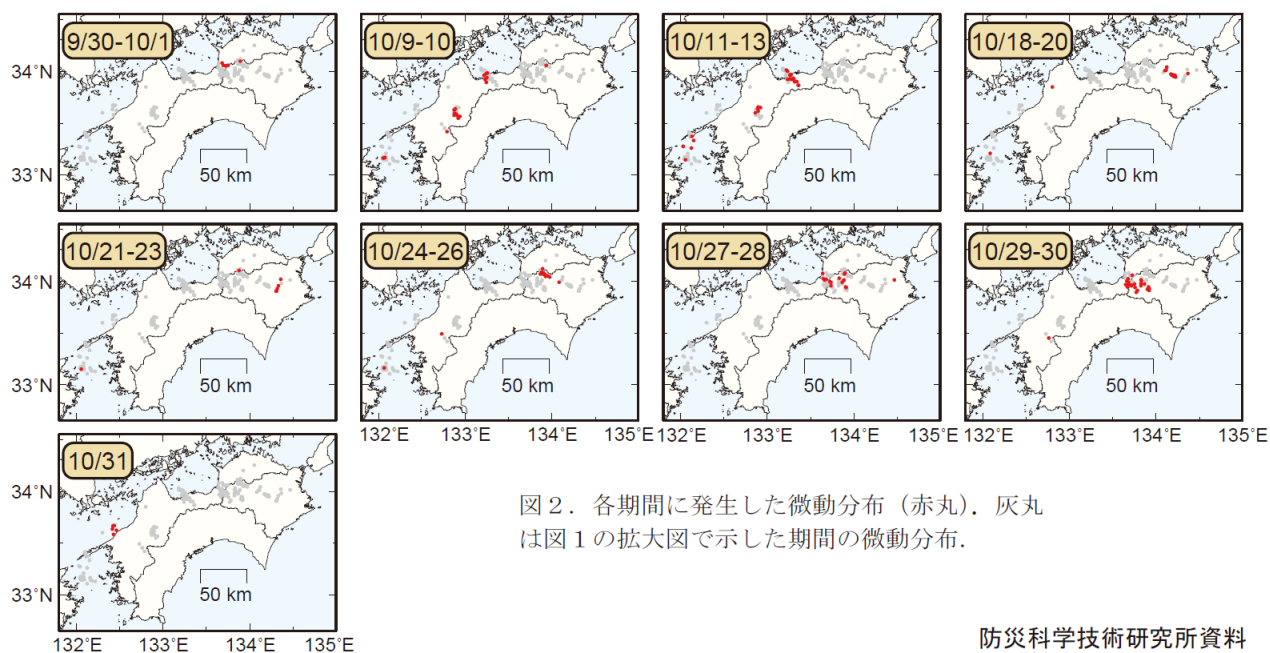
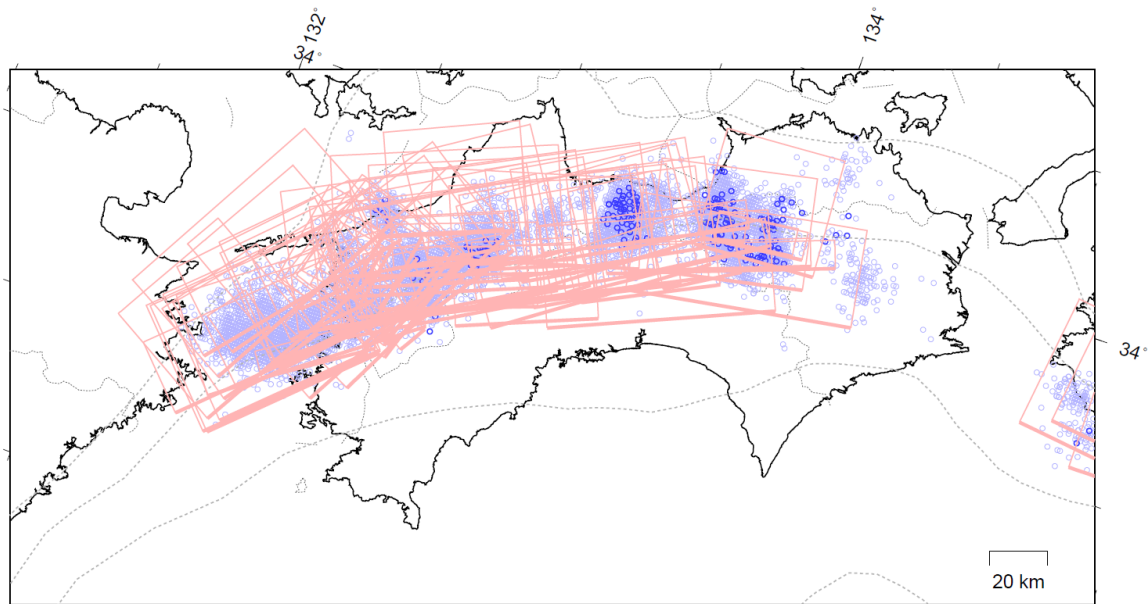


図2. 各期間に発生した微動分布 (赤丸). 灰丸は図1の拡大図で示した期間の微動分布.

四国 短期的ゆっくりすべりの活動状況

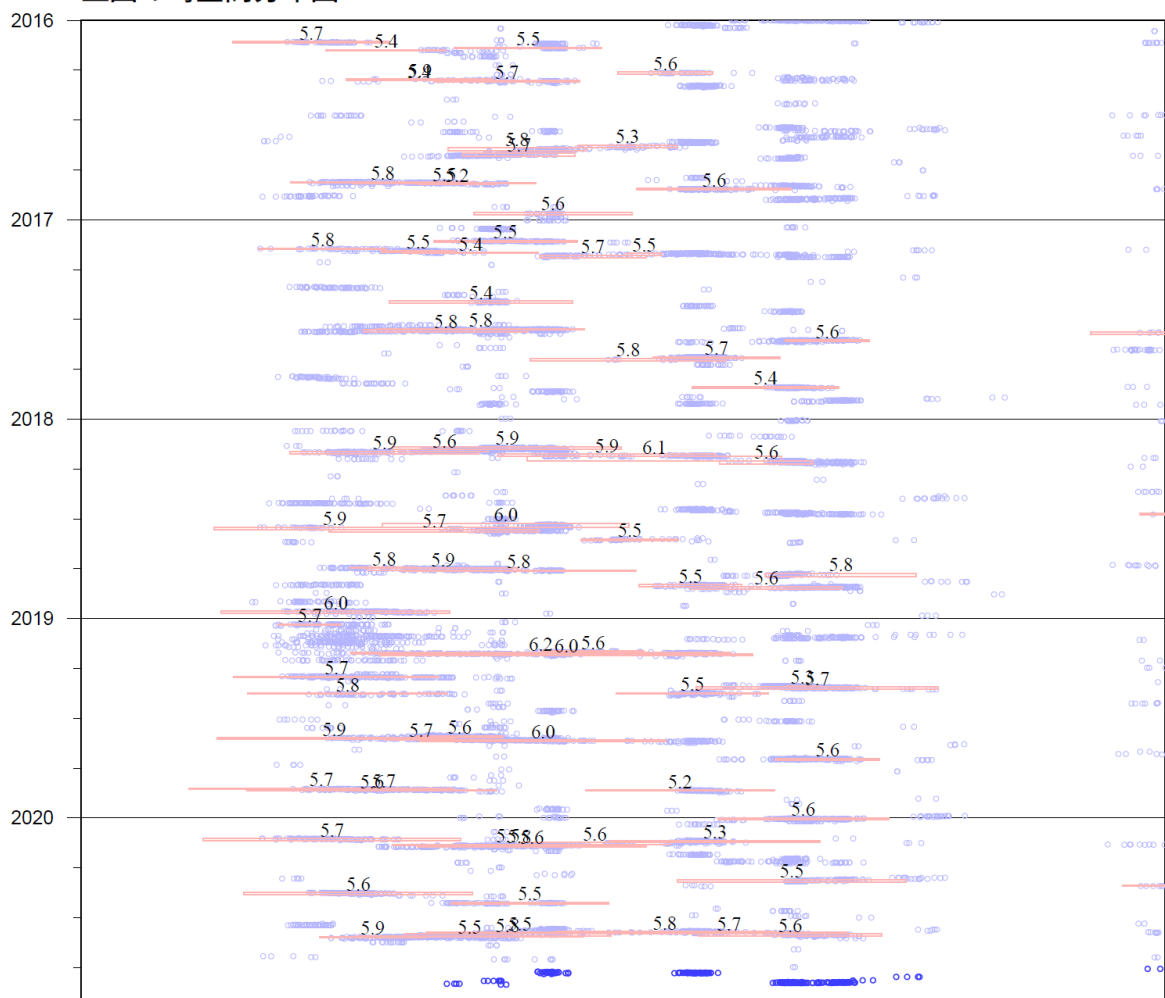
2016年1月1日～2020年11月3日

(2020年10月1日以降を濃く表示)



※赤矩形は、産業技術総合研究所による短期的ゆっくりすべりの断層モデルを示す。
※破線は、フィリピン海プレート上面の等深線を示す。

上図の時空間分布図



※短期的ゆっくりすべりの解析には、産業技術総合研究所及び防災科学技術研究所のデータを用いている。
※赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMwを示す。
※青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた低周波微動の震央を示す。

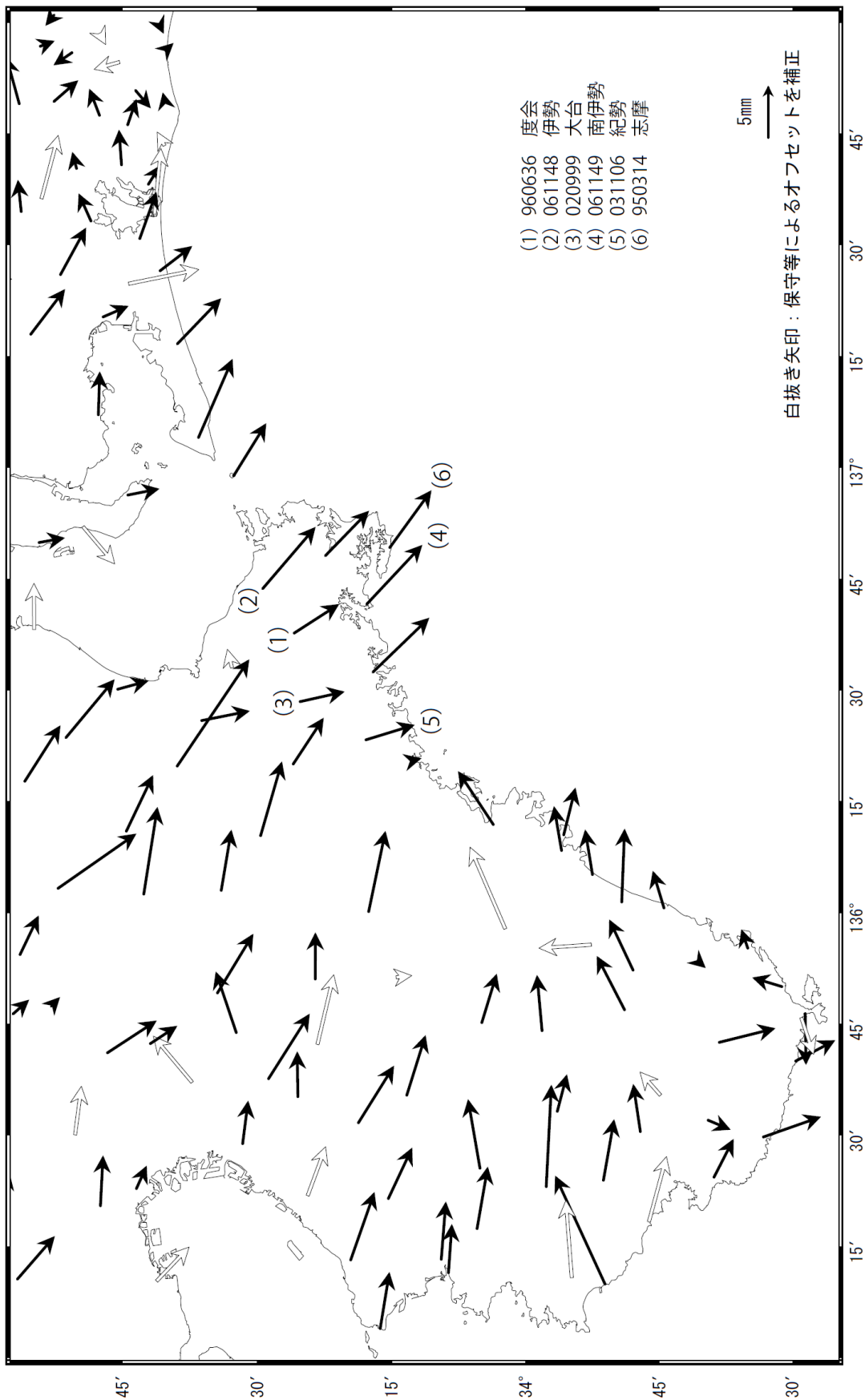
気象庁作成

（国土地理院による GNSS 解析）

志摩半島の非定常水平地殻変動（1次トレンド・年周期・半年周期除去後）

基準期間：2018/12/29～2019/01/04 [F3:最終解]
比較期間：2020/10/20～2020/10/26 [R3:速報解]

計算期間：2016/03/01～2017/03/01



固定局：網野(960640)

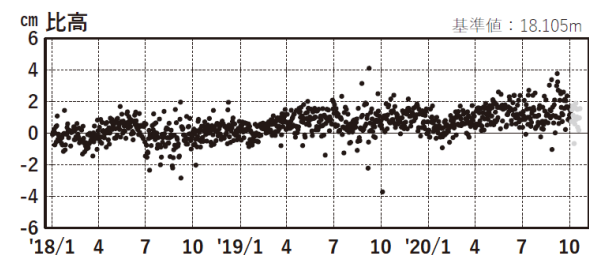
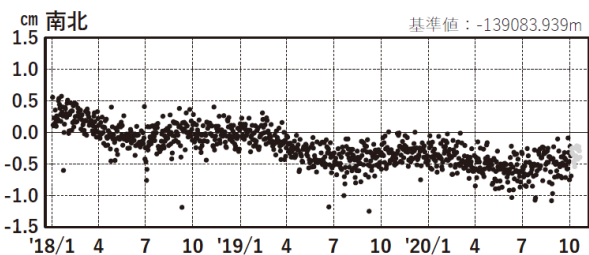
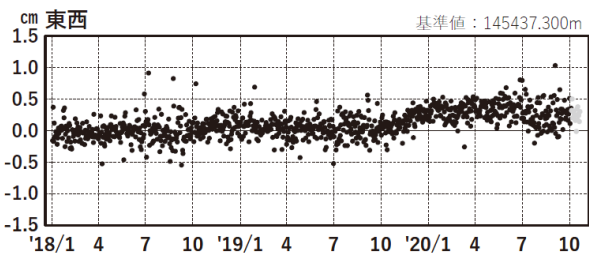
国土地理院

志摩半島 G N S S 連続観測時系列（1）
1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

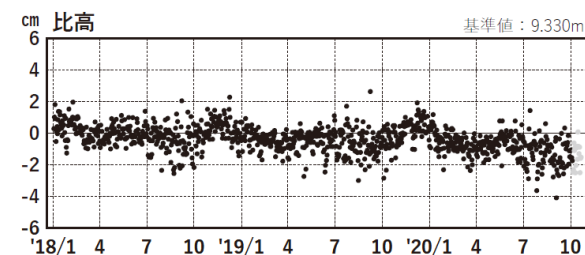
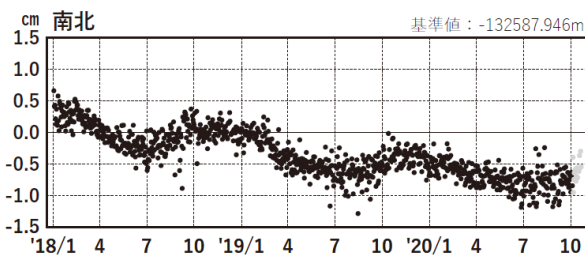
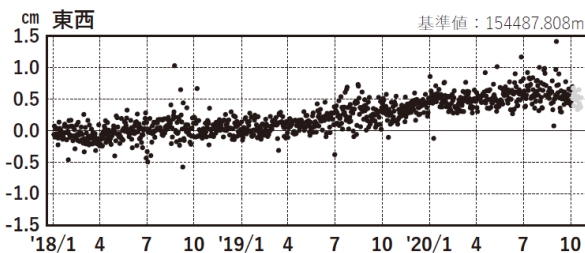
期間：2018/01/01～2020/10/24 JST

計算期間：2016/03/01～2017/03/01

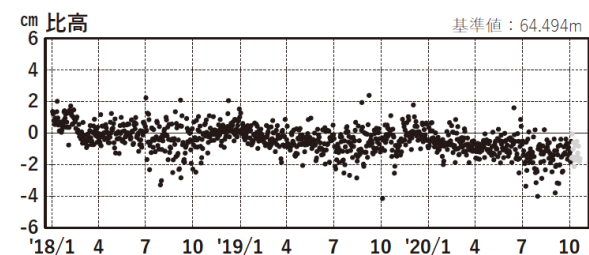
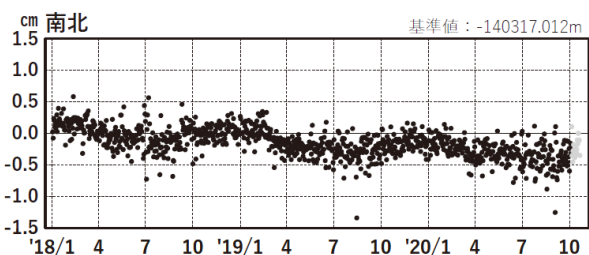
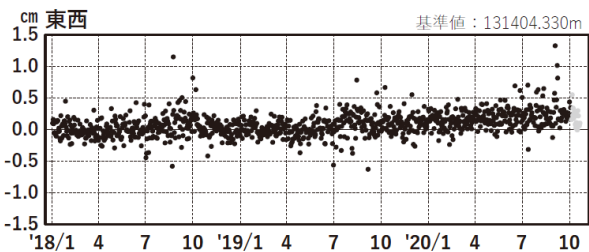
(1) 網野(960640)→度会(960636)



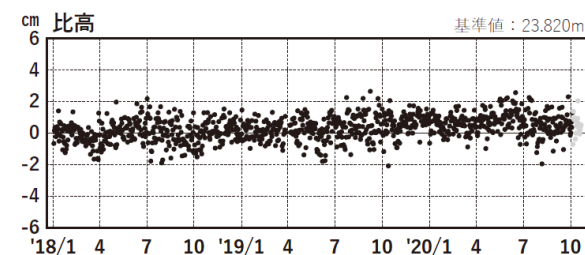
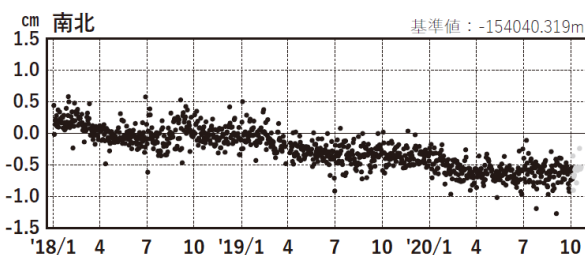
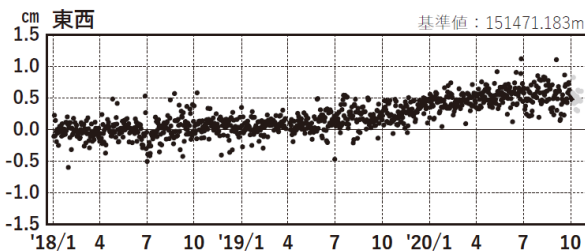
(2) 網野(960640)→伊勢(061148)



(3) 網野(960640)→大台(020999)



(4) 網野(960640)→南伊勢(061149)



●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

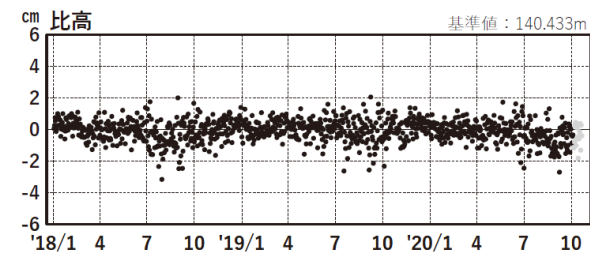
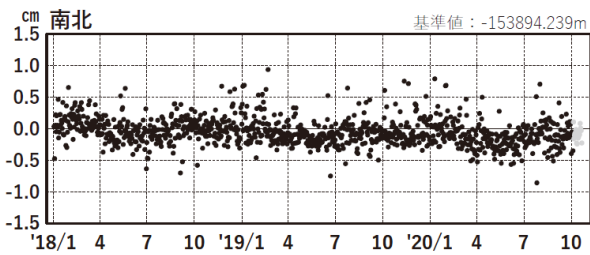
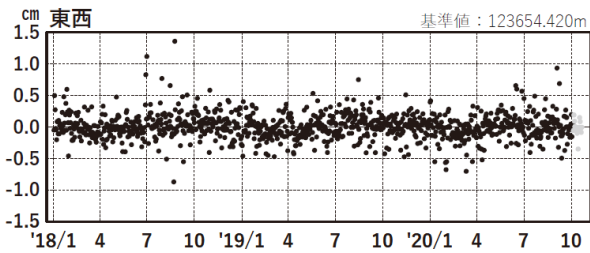
国土地理院

志摩半島 GNS S連続観測時系列（2）
1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

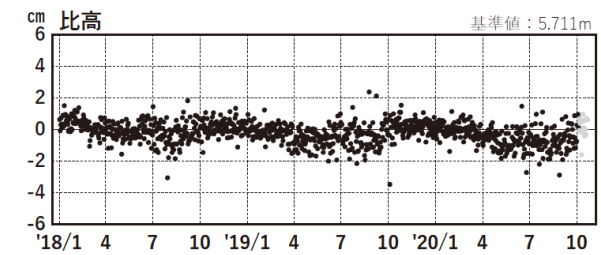
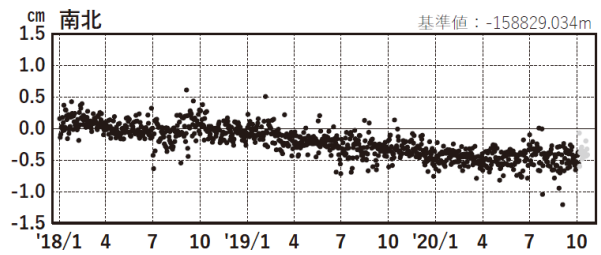
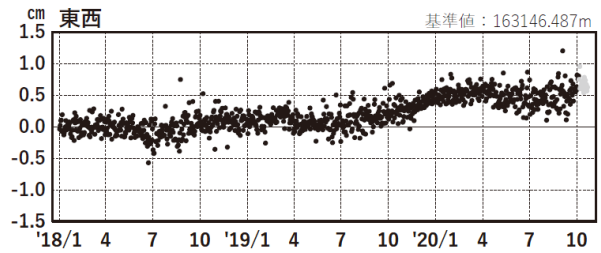
期間：2018/01/01～2020/10/24 JST

計算期間：2016/03/01～2017/03/01

(5) 網野(960640)→紀勢(031106)

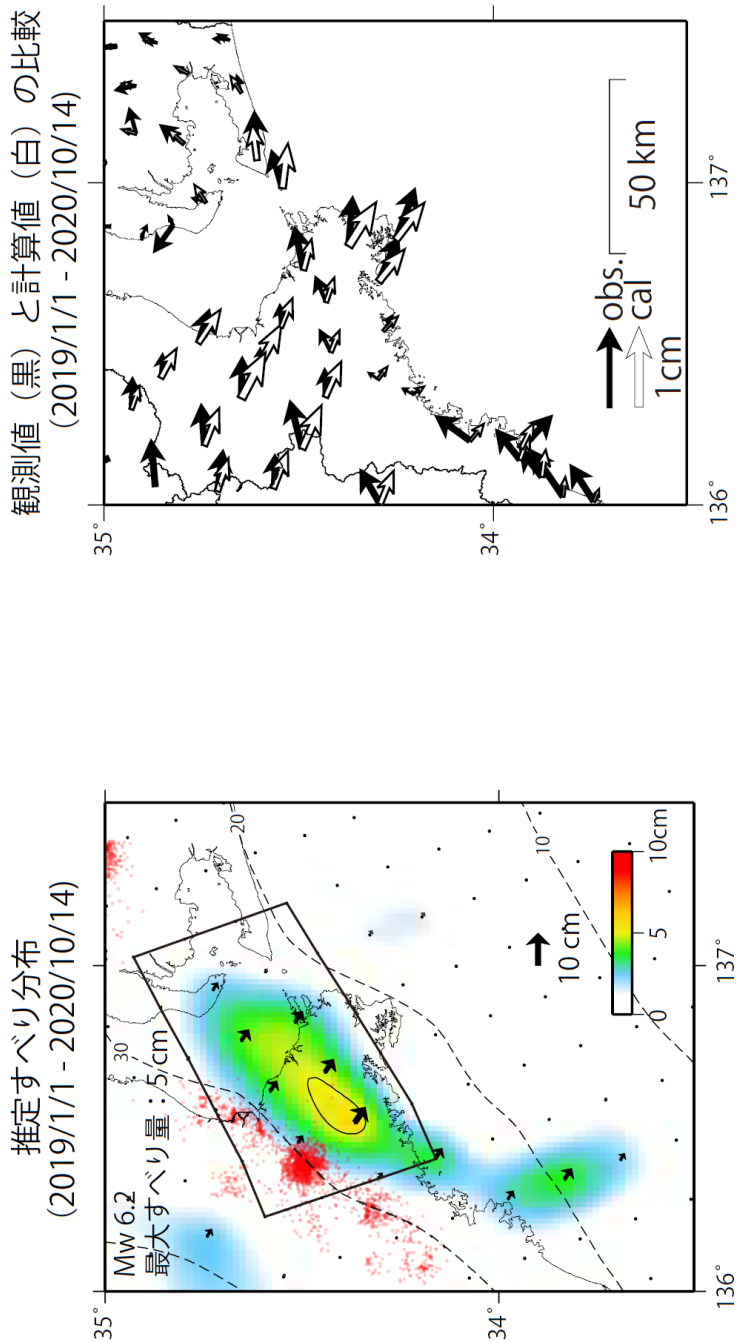


(6) 網野(960640)→志摩(950314)



●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

GNSSデータから推定された
志摩半島の長期的ゆっくりすべり（暫定）

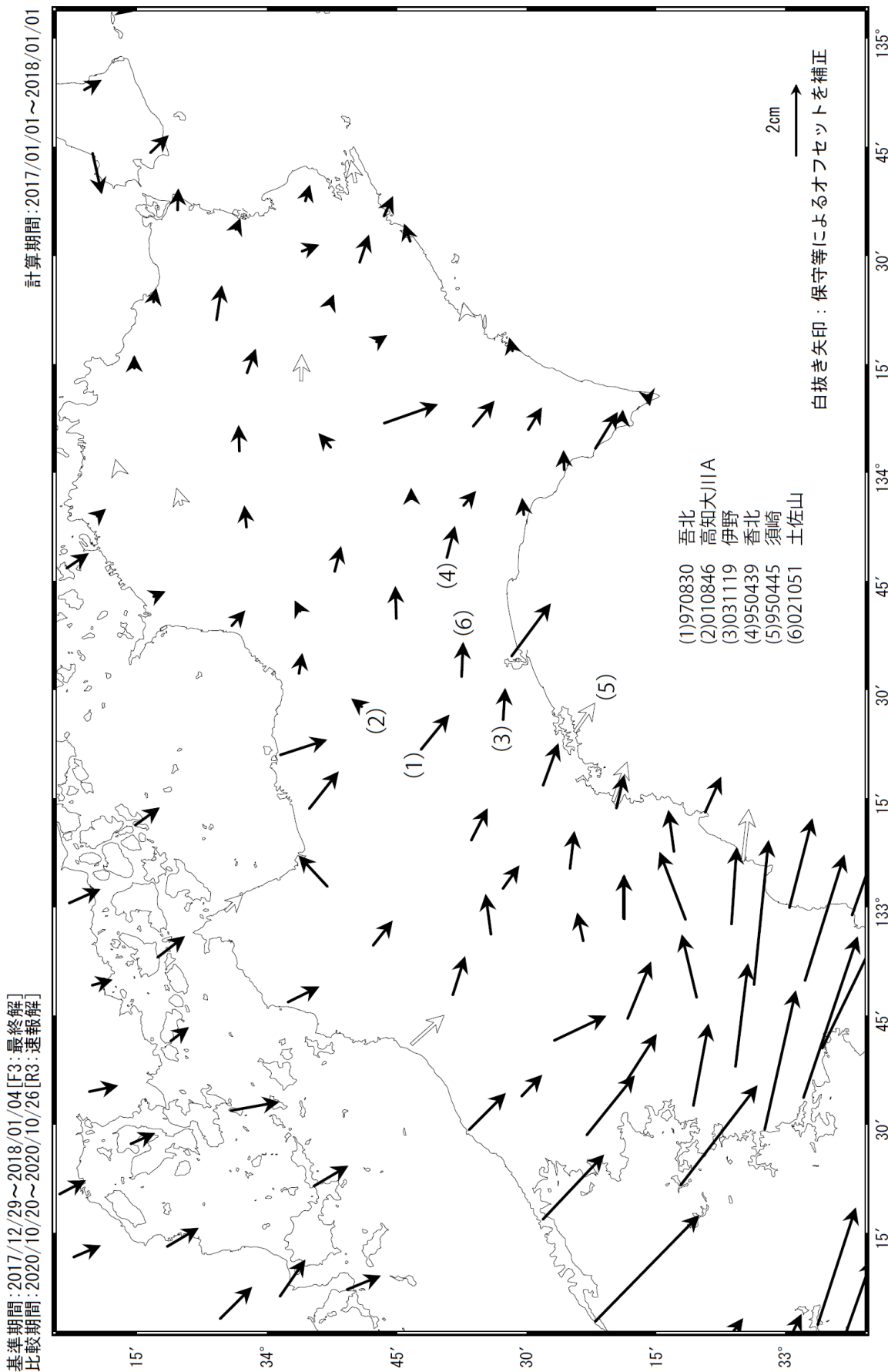


使用データ：F3解 (2018/1/1 - 2020/10/3) + R3解 (2020/10/4 - 2020/10/14) ※電子基準点の保守等による変動は補正済み
 トレンド期間：2016/3/1 - 2017/3/1（年周・半年周成分は2017/1/1 - 2020/10/14のデータで補正）
 モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
 黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(弘瀬・他、2007)
 すべり方向：プレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束
 赤丸：低周波地震（気象庁一元化震源）
 固定局：網野

（国土地理院によるGNSS解析）

四国中部の非常常水平地殻変動（1次トレンド・年周期・半年周期除去後）



固定局：網野(960640)

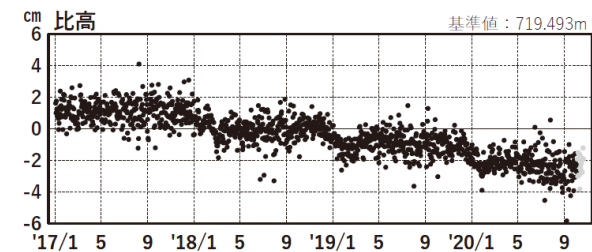
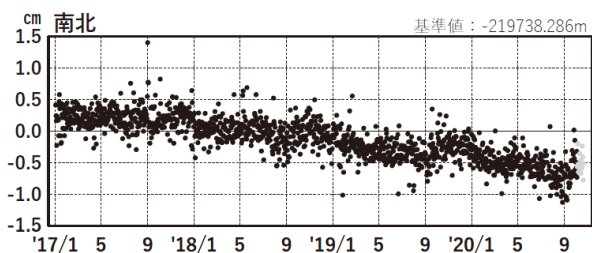
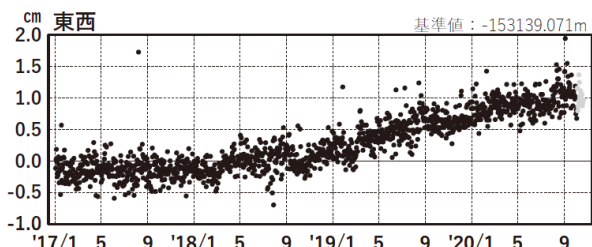
国土地理院

四国中部 G N S S 連続観測時系列（1）
1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

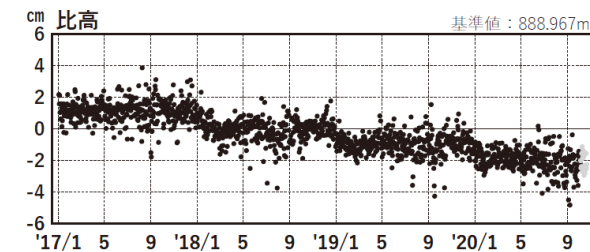
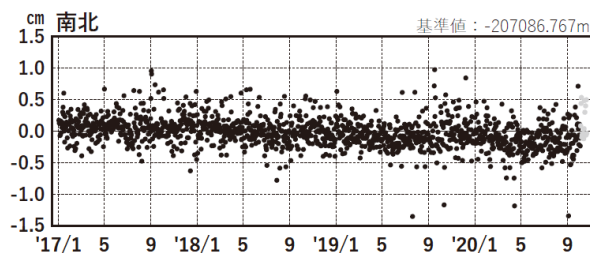
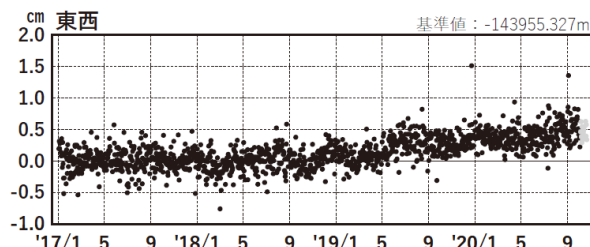
期間: 2017/01/01~2020/10/24 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

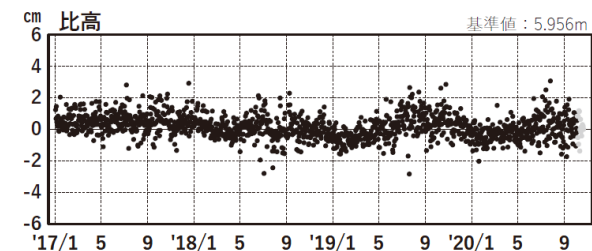
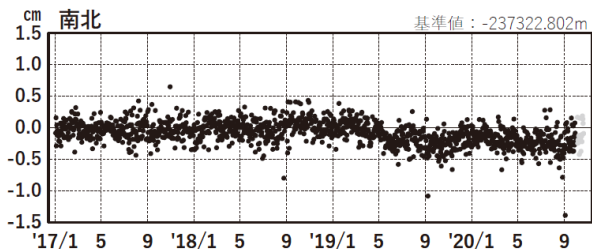
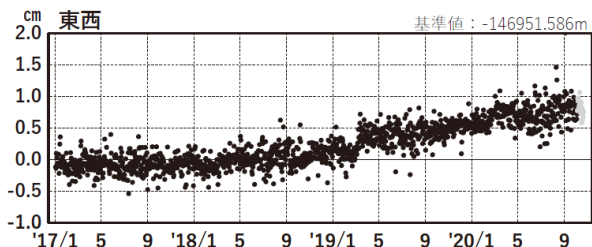
(1) 網野(960640)ー吾北(970830)



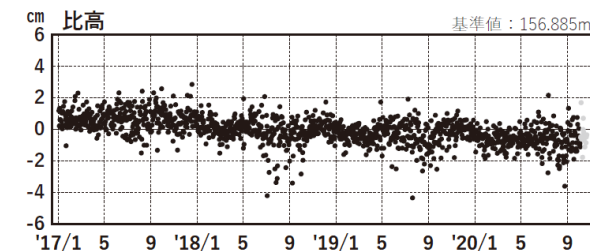
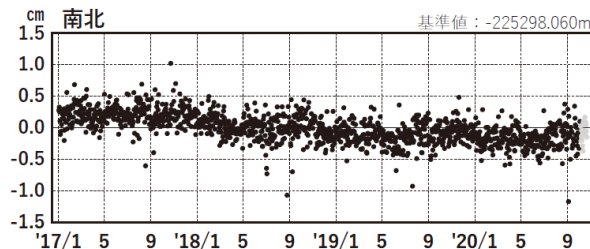
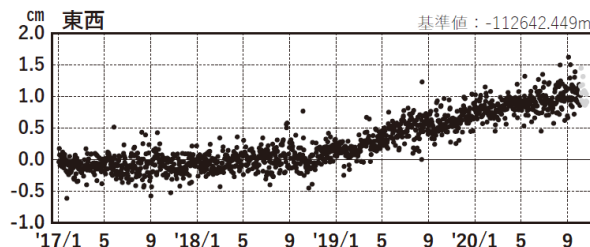
(2) 網野(960640)ー高知大川A(010846)



(3) 網野(960640)ー伊野(031119)



(4) 網野(960640)ー香北(950439)



●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

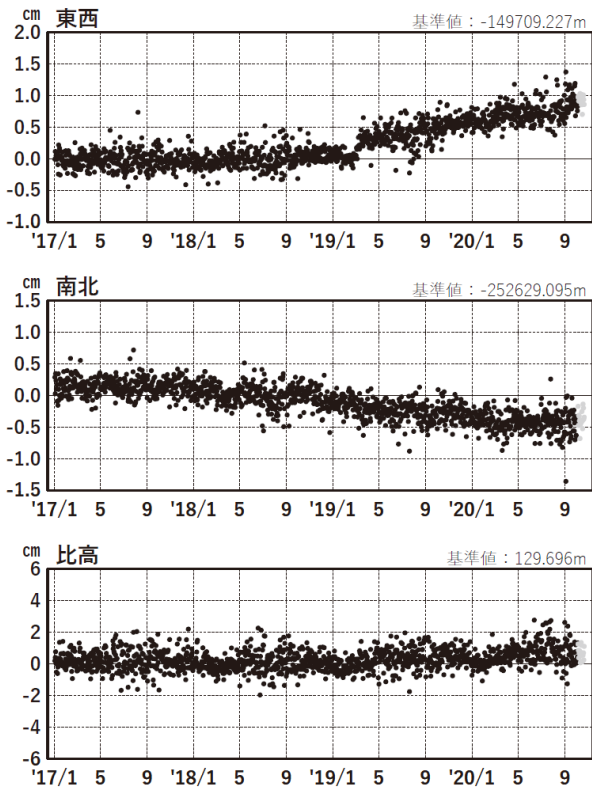
国土地理院

四国中部 G N S S連続観測時系列（2）
1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

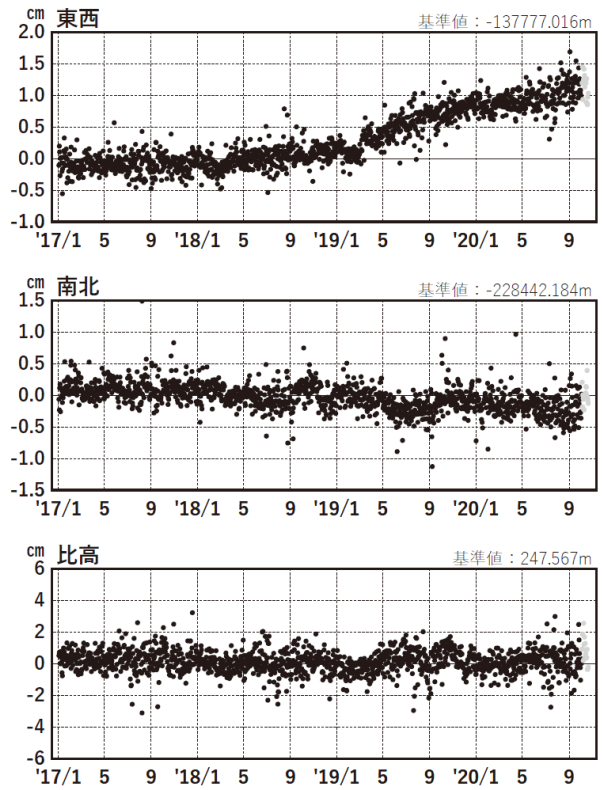
期間：2017/01/01～2020/10/24 JST

計算期間：2017/01/01～2018/01/01

(5) 網野(960640)→須崎(950445)

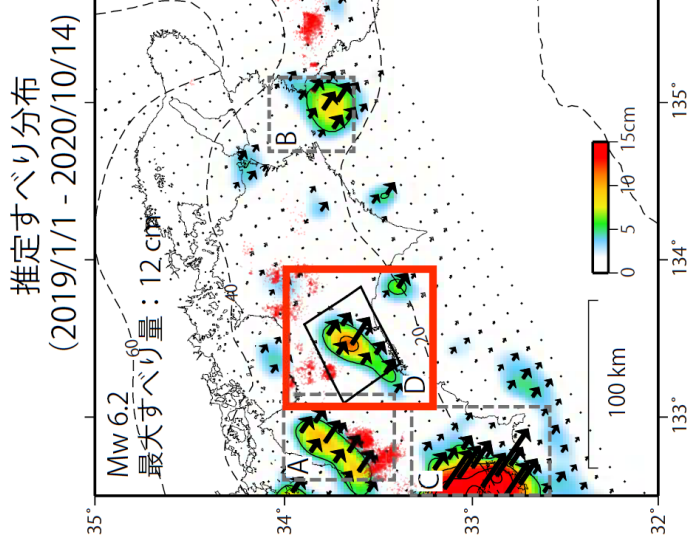


(6) 網野(960640)→土佐山(021051)



●---[F3:最終解] ○---[R3:速報解]

GNSSデータから推定された
四国中部の長期的ゆっくりすべり（暫定）



- A 四国西部の短期的ゆっくりすべり
- B 紀伊水道の長期的ゆっくりすべり
- C 豊後水道の長期的ゆっくりすべり
- D 四国中部の長期的ゆっくりすべり**

使用データ：F3解 (2019/1/1 - 2020/10/3) + R3解 (2020/10/4 - 2020/10/14) ※電子基準点の保守等による変動は補正済み
 トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1 (年周・半年周成分は 2017/1/1 - 2020/10/14 のデータで補正)

モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

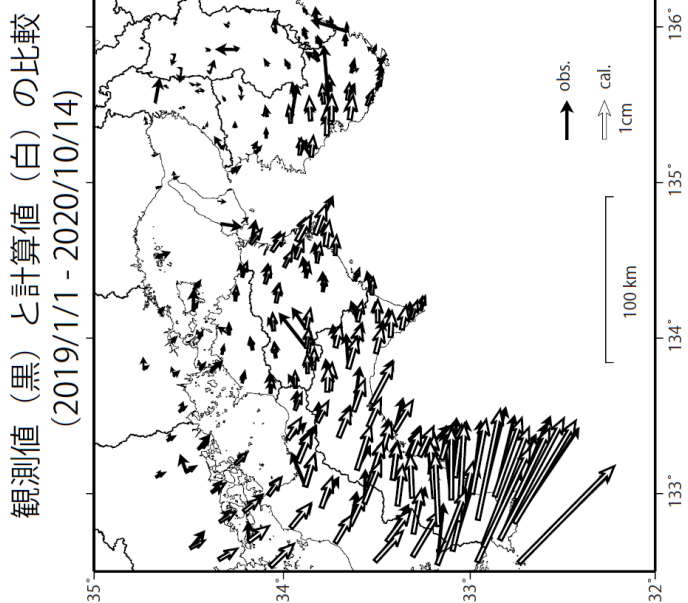
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線 (弘瀬・他、2007)

すべり方向：プレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束

赤丸：低周波地震 (気象庁一元化震源)

固定局：網野

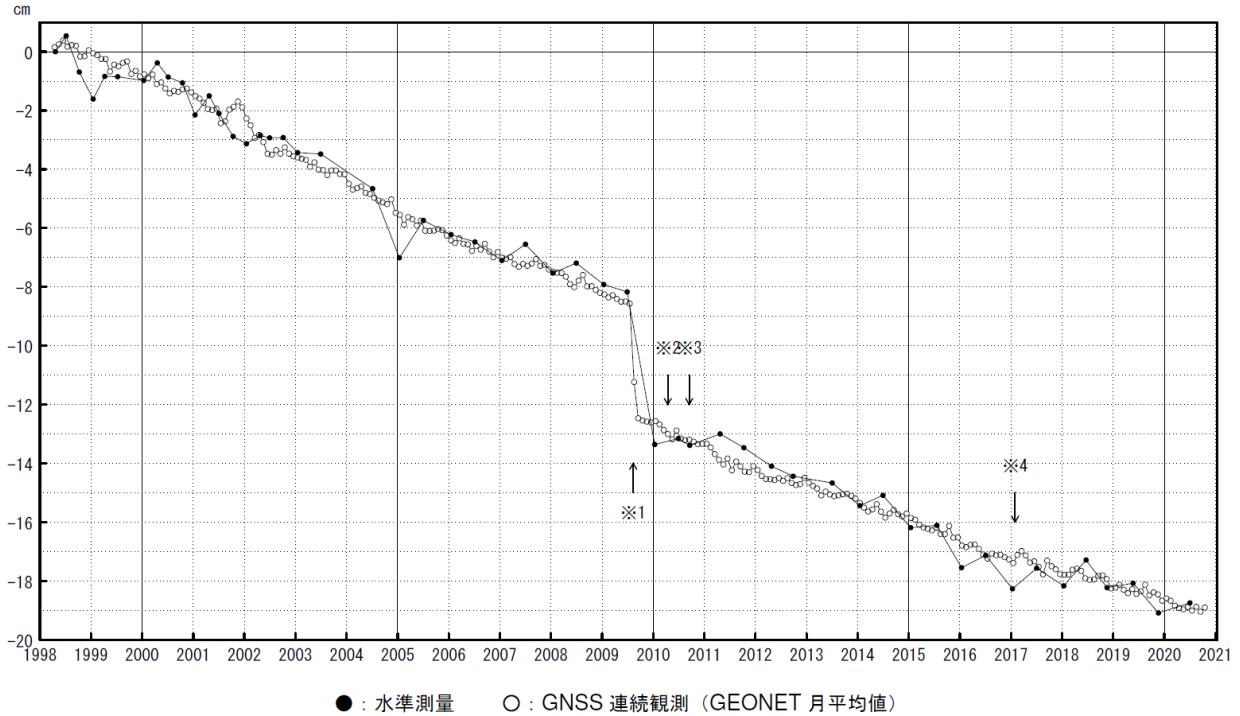


御前崎 電子基準点の上下変動

水準測量と GNSS 連続観測

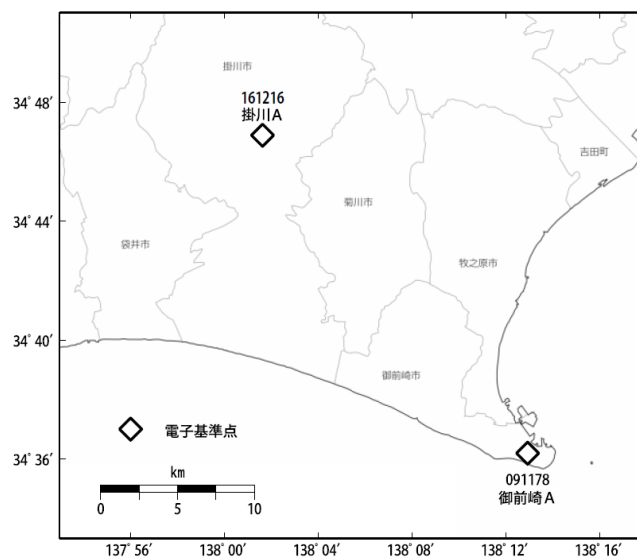
掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



・ 最新のプロット点は 10/01~10/10 の平均。

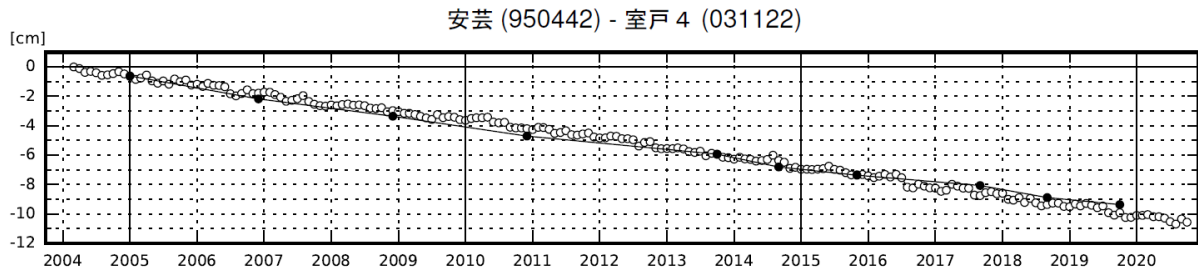
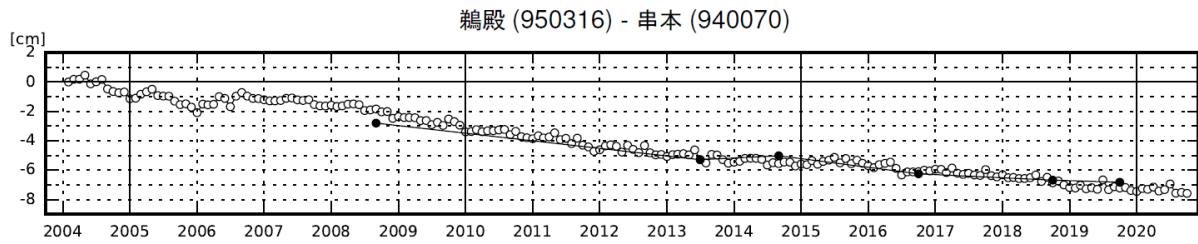
- ※1 電子基準点「御前崎」は 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震 (M6.5) に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
- ※2 2010 年 4 月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎 A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎 A」のデータを接続して表示している。
- ※3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる 2010 年 9 月から表示している。
- ※4 2017 年 1 月 30 日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川 A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川 A」のデータを接続して表示している。



国土地理院

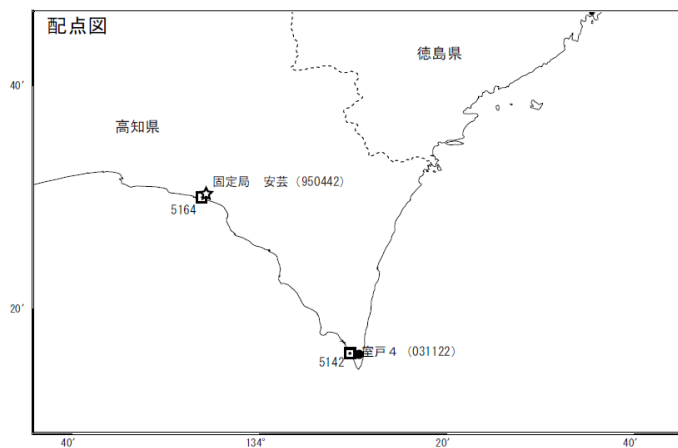
紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。



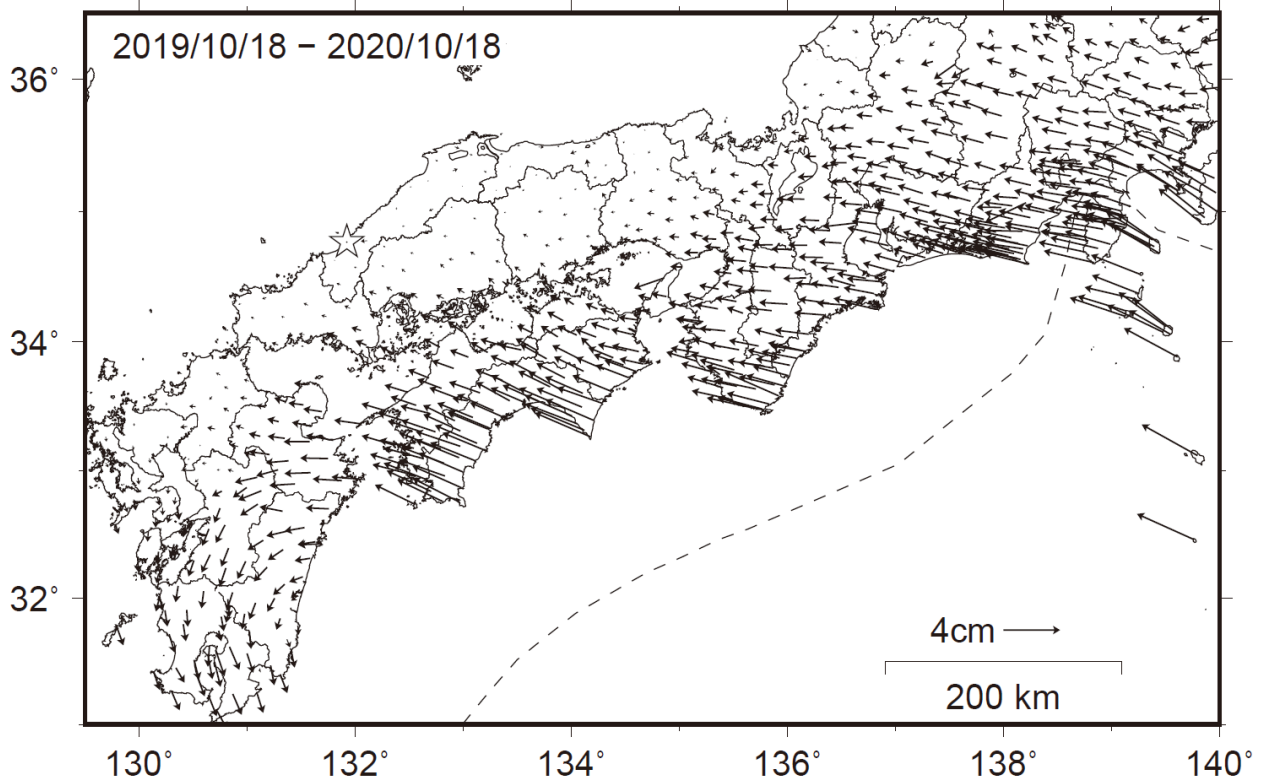
● : 水準測量 ○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)

- ・ 最新のプロット点は 10/1～10/10 の平均。
- ・ 水準測量による結果については、最寄りの一等水準点の結果を表示している。

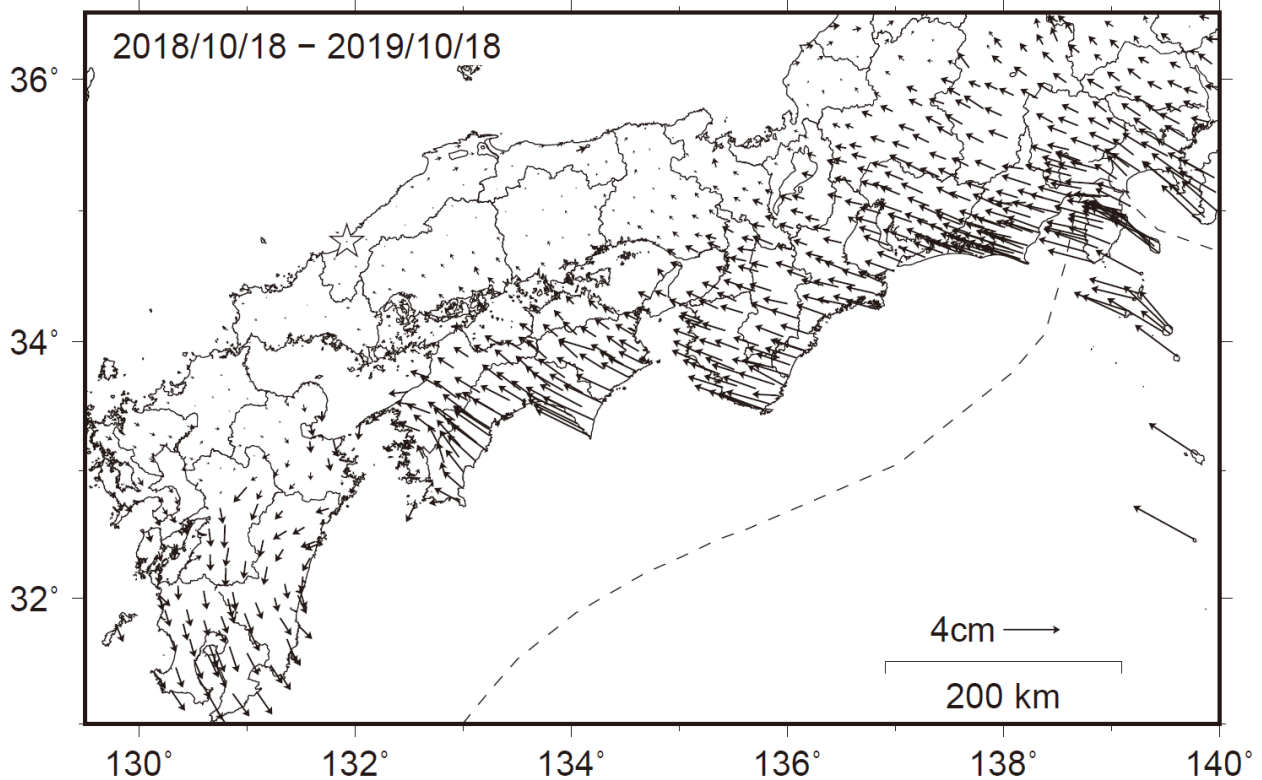


南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近1年間】



【1年前の1年間】



・各日付 ± 6日の計13日間の変動量の中央値をとり、その差から1年間の変動量を表示している。

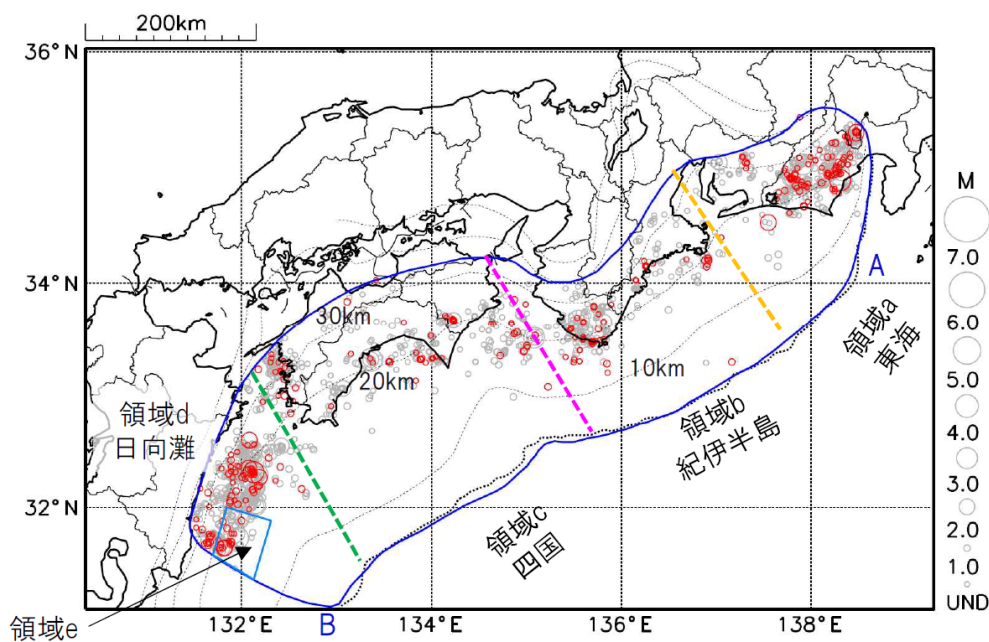
プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

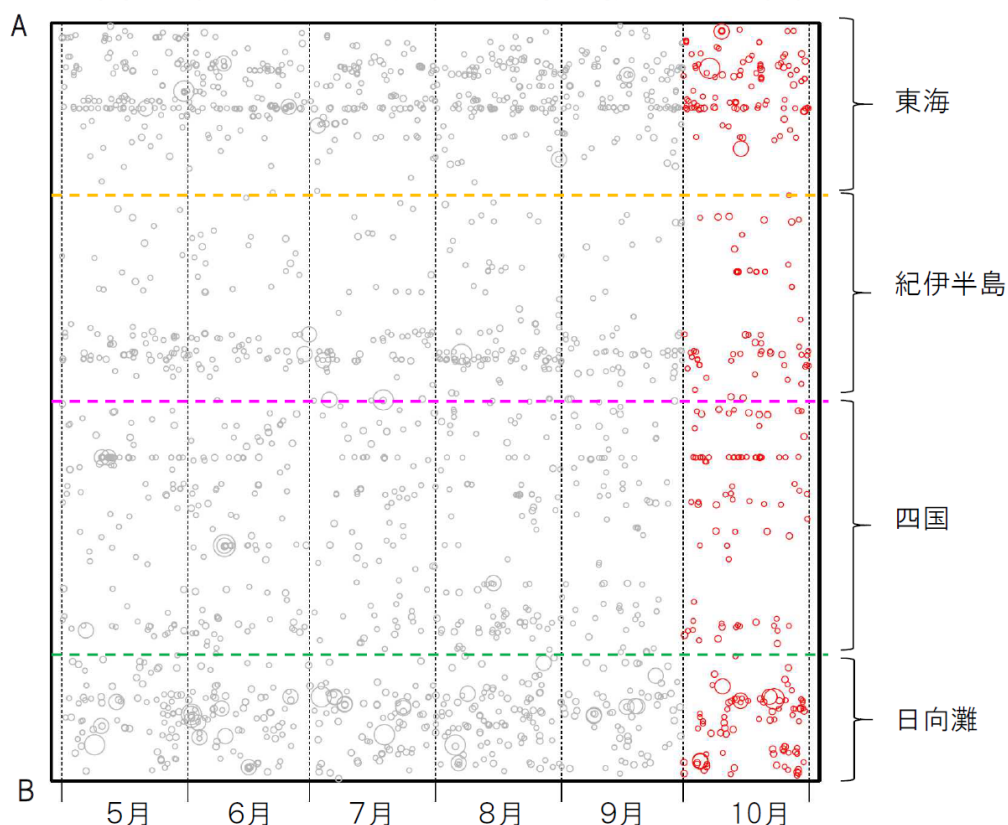
日向灘の領域e内のみ、深さ20km～30kmの地震を追加している。

震央分布図

(2020年5月1日～2020年10月31日、M全て、2020年10月の地震を赤く表示)



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図(A-B投影)



・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。

・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差（+は浅い、-は深い）を示す。

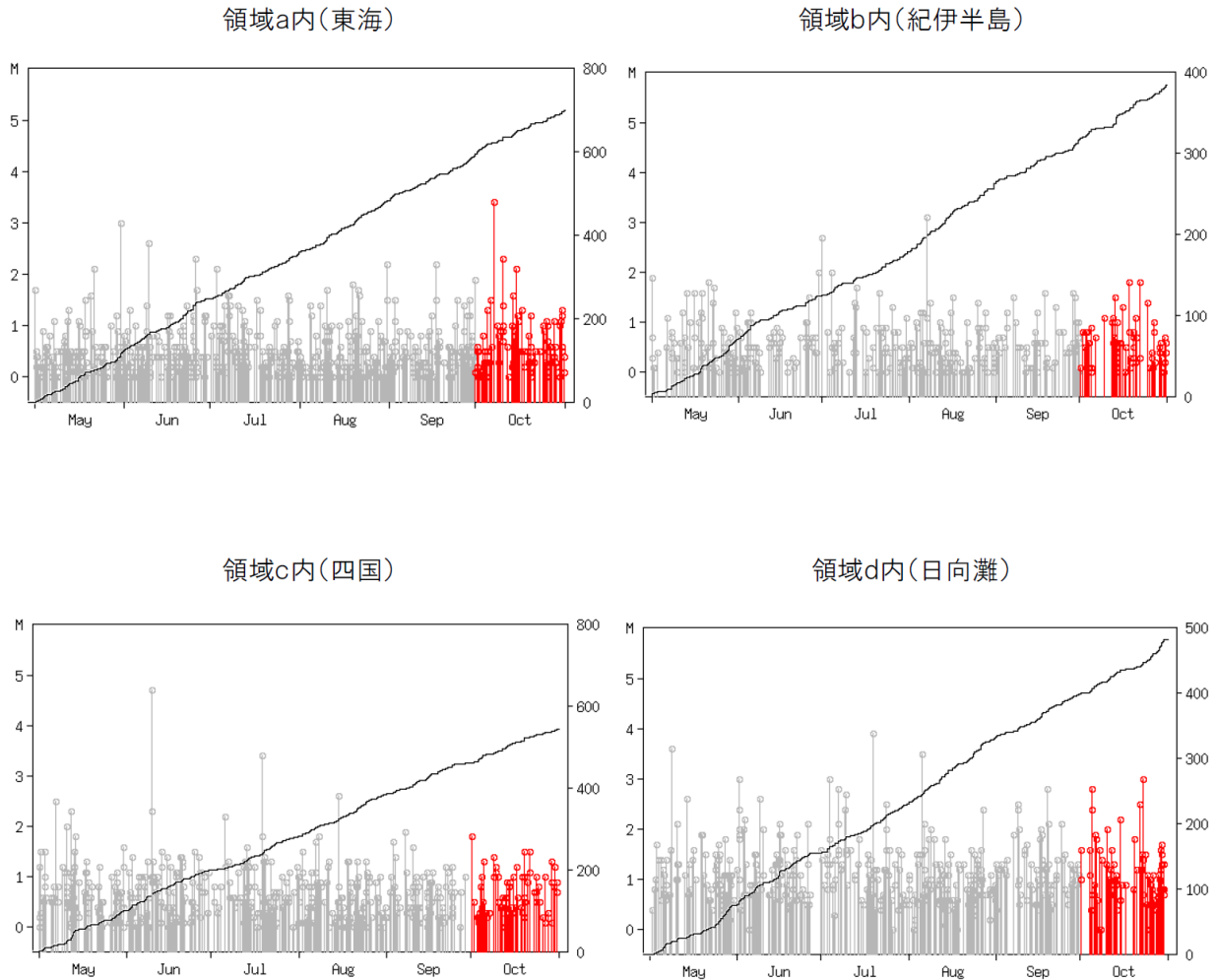
・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

気象庁作成

プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図



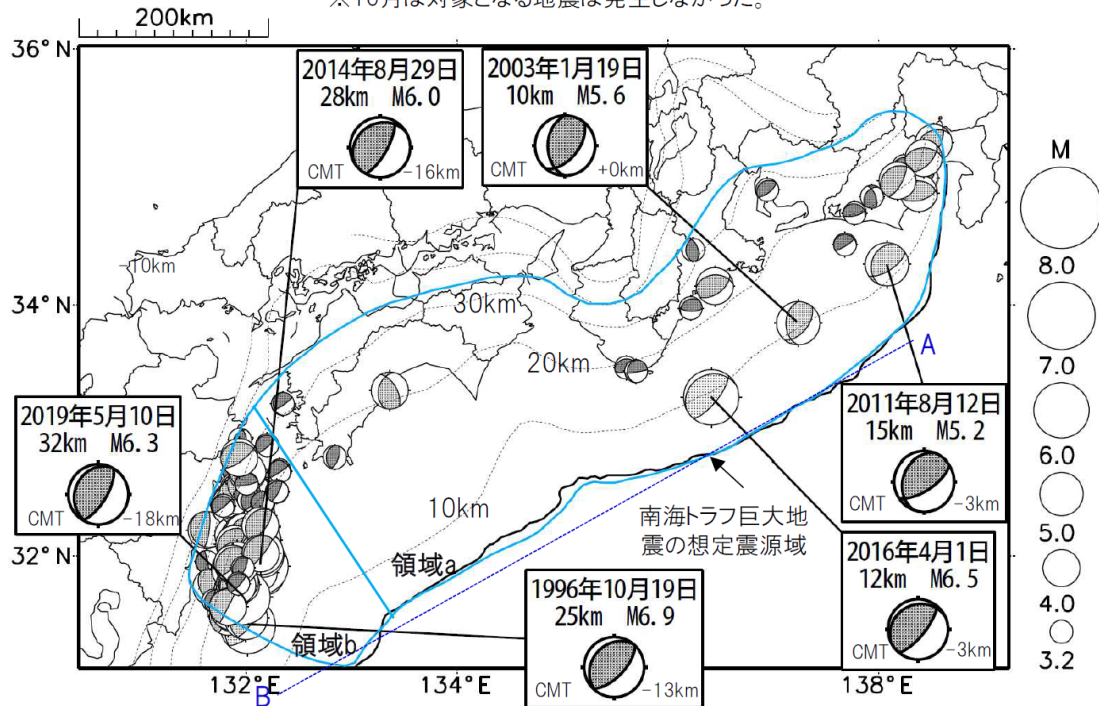
※M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

気象庁作成

想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

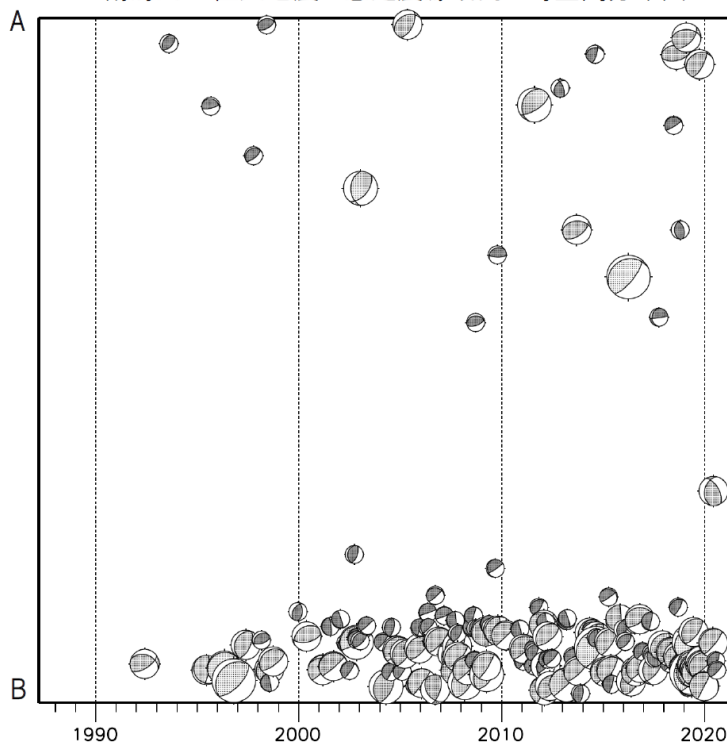
震央分布図(1987年9月1日～2020年10月31日、M \geq 3.2、2020年10月の地震を赤く表示)

※10月は対象となる地震は発生しなかった。



- ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
- ・今期間に発生した地震(赤)、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。
- ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
- ・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。
- ・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。
- ・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

【抽出条件】

- ・M3.2以上の地震
- ・領域a内(南海トラフの想定最大規模の想定震源域内)で発生した地震
- ・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。
 - P軸の傾斜角が45度以下
 - P軸の方位角が65度以上180度以下(※)
 - T軸の傾斜角が45度以上
 - N軸の傾斜角が30度以下
- ※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様
- ・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。
- ・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。
- ・東海地方から四国地方(領域a)は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘(領域b)は、+10km～-20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

気象庁作成

南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2020年10月31日

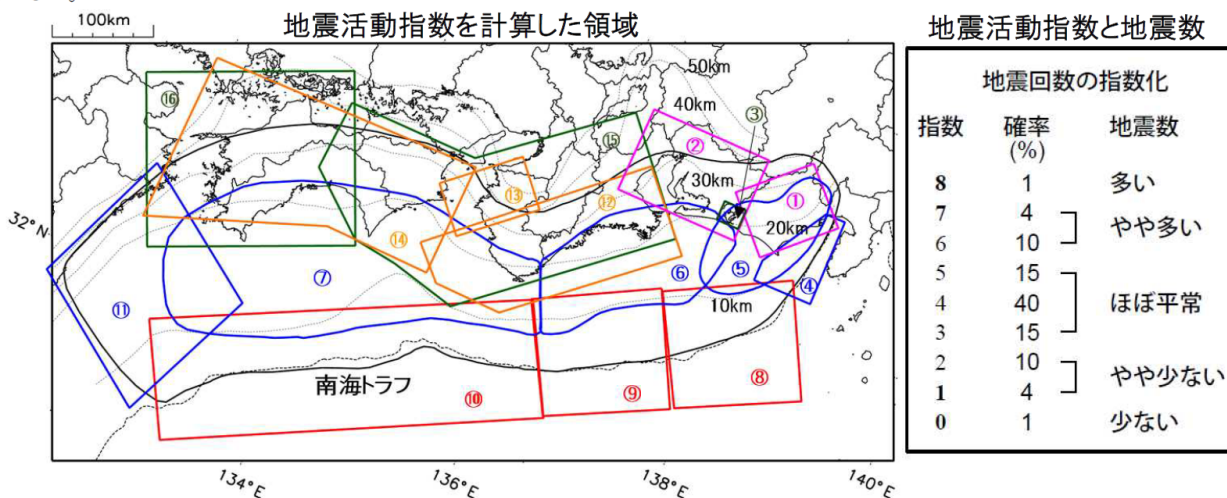
領域	①静岡県 中西部		②愛知県		③浜名湖 周辺	④駿河 湾	⑤東海	⑥東南 海	⑦南海
	地	プ	地	プ	プ	全	全	全	全
地震活動指数	4	4	2	7	7	4	4	4	4
平均回数	16.5	18.5	26.5	13.7	13.4	13.3	18.3	19.6	21.3
Mしきい値	1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ 除去	距離	3km		3km		3km	10km	10km	10km
	日数	7日		7日		7日	10日	10日	10日
対象期間	60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ	0～ 30km	0～ 60km	0～ 30km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 100km	0～ 100km

領域	南海トラフ沿い		⑪日向 灘	⑫紀伊 半島	⑬和歌 山	⑭四国	⑮紀伊半 島	⑯四国
	⑧東側	⑩西側						
	全	全	全	地	地	地	プ	プ
地震活動指数	6	2	3	4	0	4	4	3
平均回数	12.1	14.9	20.6	22.9	41.8	30.5	27.7	28.1
Mしきい値	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
クラスタ 除去	距離	10km	10km	10km	3km	3km	3km	3km
	日数	10日	10日	10日	7日	7日	7日	7日
対象期間	720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日
深さ	0～ 100km	0～ 100km	0～ 100km	0～ 20km	0～ 20km	0～ 20km	0～ 20km	20～ 100km

* 基準期間は、全領域1997年10月1日～2020年10月31日

* 領域欄の「地」は地殻内、「プ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

* ⑨の領域(三重県南東沖)は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。



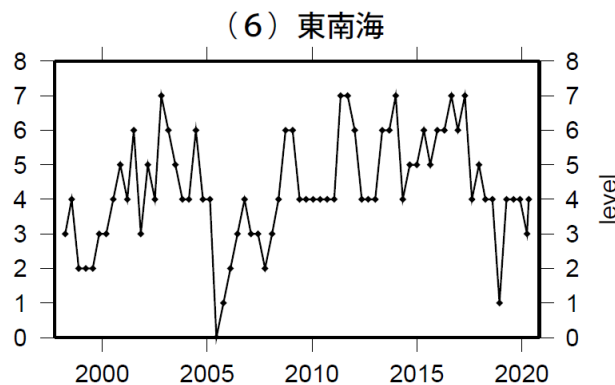
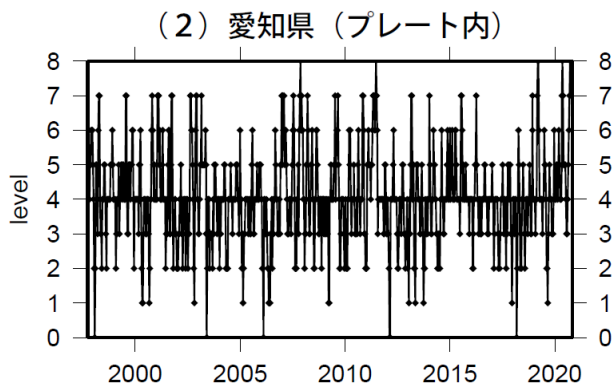
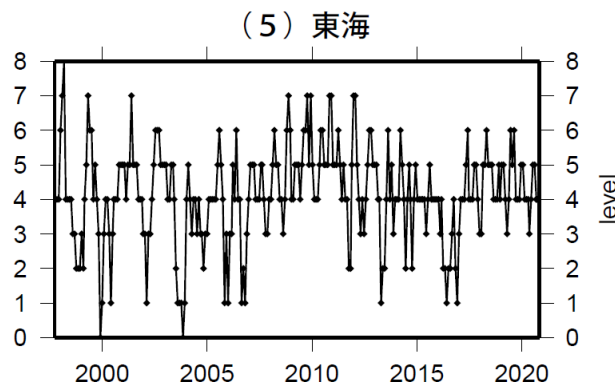
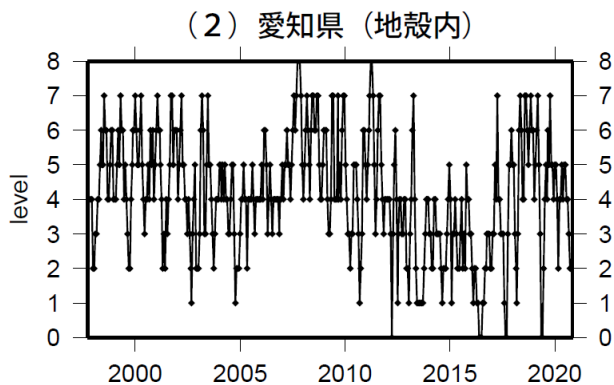
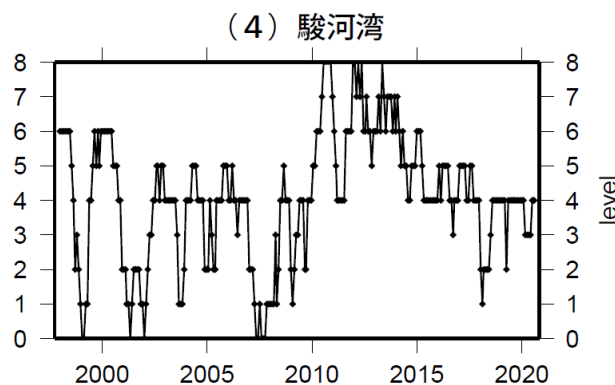
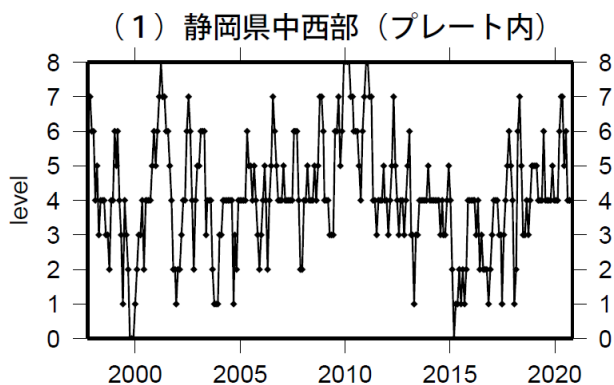
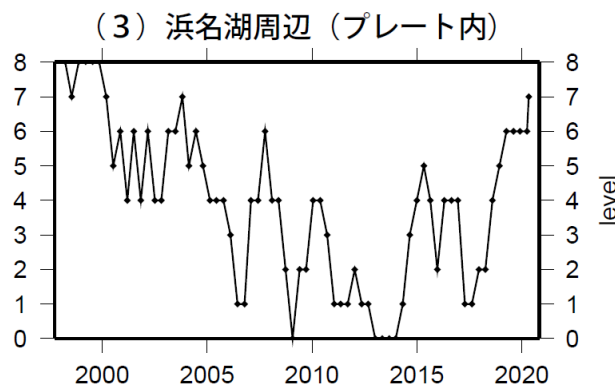
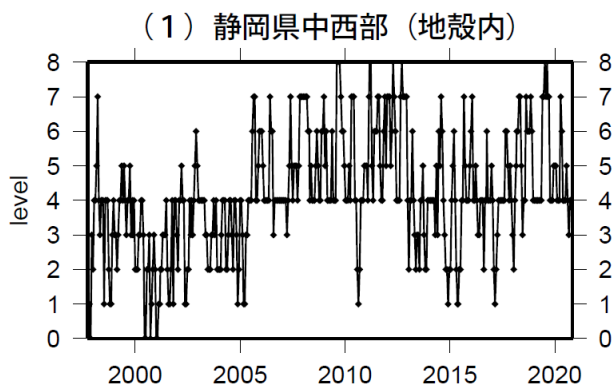
* 黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

* Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

気象庁作成

地震活動指数一覧

2020年10月31日

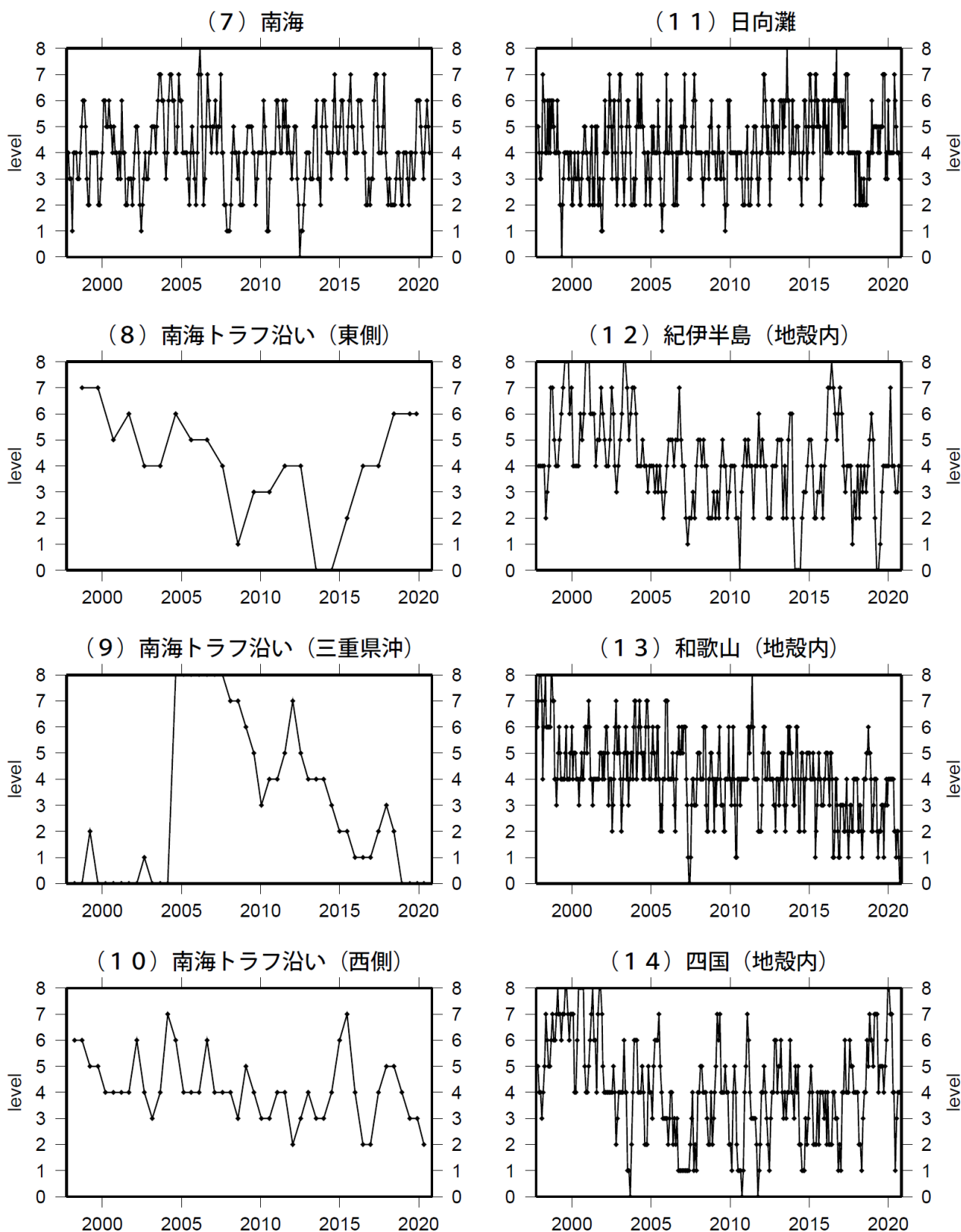


活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数		少	←	平常	→		多		

気象庁作成

地震活動指数一覧

2020年10月31日

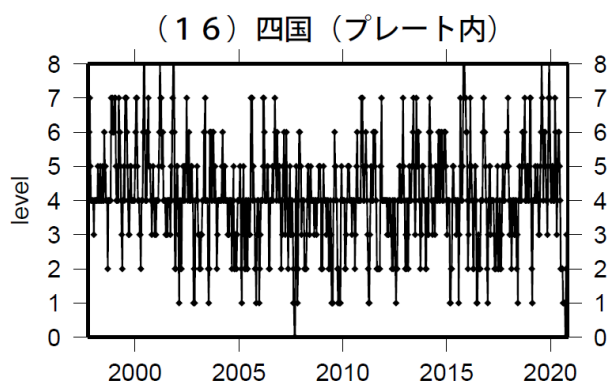
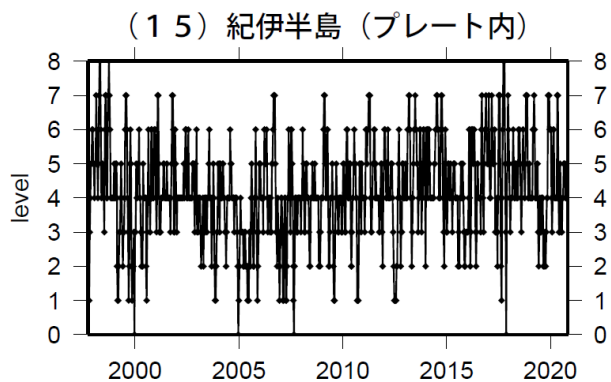


活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←	平常	→	多				

気象庁作成

地震活動指数一覧

2020年10月31日



活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←		平常	→		多		